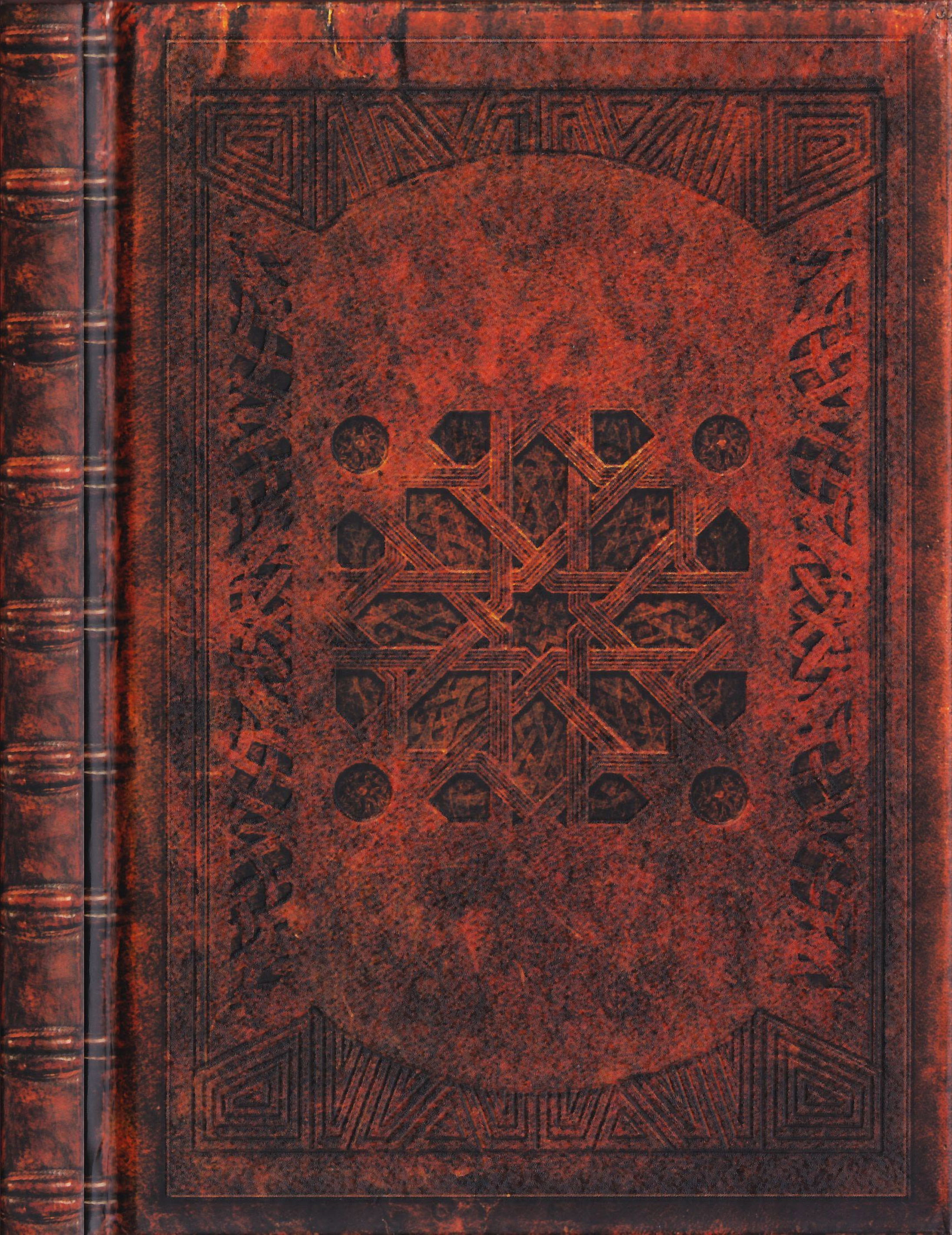



N
NW
NE
W
E
SW
SE
S




Esterior
Promalock


Celceta
Gllia
Ispani
Barencia
Ediz


Europe


The Afroca Continent

The Eresia Continent



本書は、
冒険家アドル・クリスティンが晩年、
「ゲーテ海案内記」を執筆する際の
参考に用いたとされる、
セイレン島漂流生活当時の手稿を
写したものである。

手稿そのものに大きく損耗したり
消失したページが多々あるため、
判読可能な範囲での抜粋となっていることを
ご理解いただきたい。

the CODEX *of* ADOL CHRISTIN

PERIPLUS OF THE GAETE SEA
WRITING MATERIALS

アドル・クリスティン手稿

ゲーテ海案内記執筆資料

ロンバルディア号　グリーク海域図



これは船員たちが持っている海図を写しとったものだ。



サンドリア～スニオン間 定期航路
客船ロンバルディア号はこのルートを航行の予定だ。

至サンドリア港

サンドリア港で手頃な額でゲーテ海を渡してくれそうな船を探し始めたが、なかなか見つからない。嫌そうな顔をされることもあった。

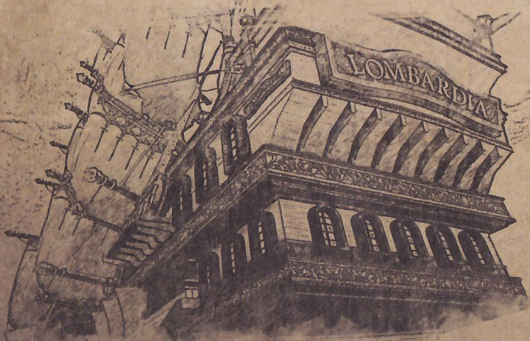
旅客船の船長が僕らの肩書に興味を持ち、雇ってくれるそうだ！見習い水夫として！

旅客船ロンバルディア号

エレシア大陸へ向かう航路上では
最大級の旅客船だそうだ。

全長50メライ
4本の大マスト
大砲20門

Passage Liner
"Lombardia"

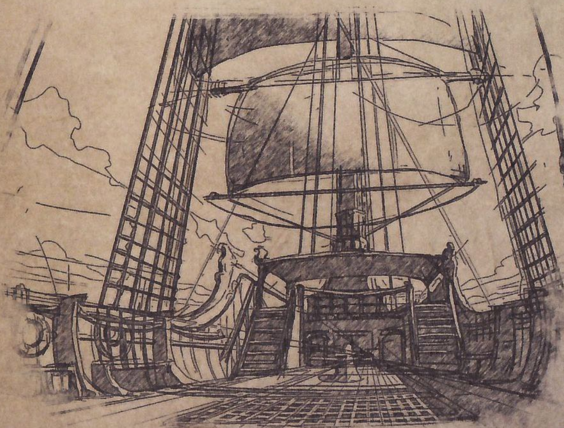


船尾側には、
外からも目立つ
大ホールがある。



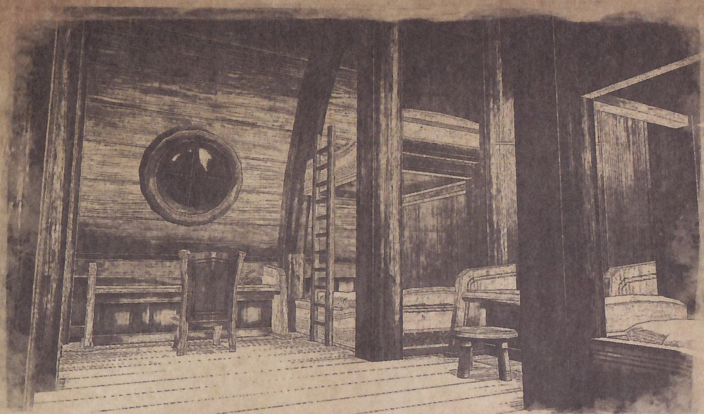
船員の話によると、ゲーテ海域には商用船の積み荷を狙って
海賊が出没することもあるそうだ。

定期客船であるこの船に大型の砲門が備え付けられているのは、
海賊の襲撃から身を守るための安全対策、ということなのだろう。

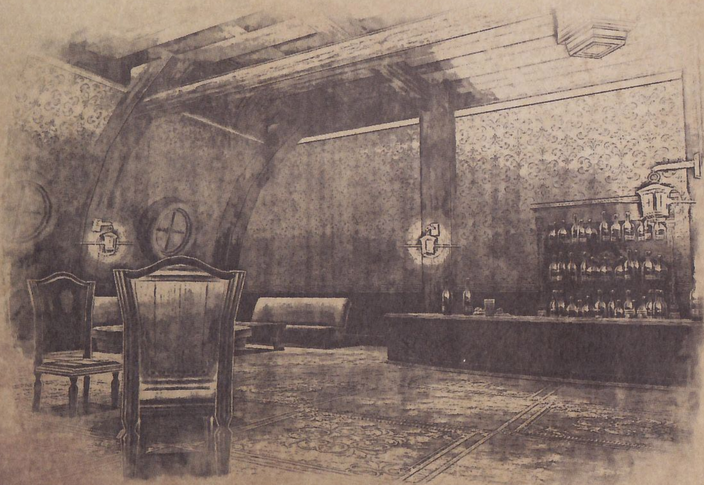


甲板から見上げる
大マストは圧巻だ。

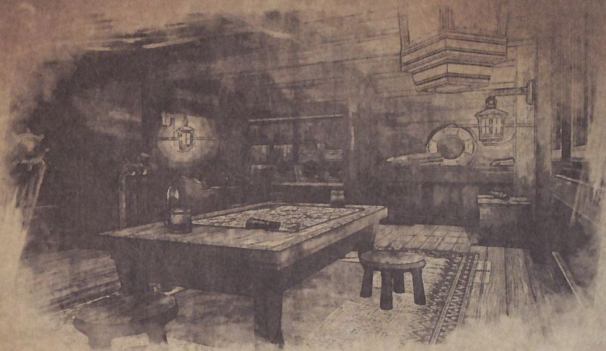
そういえば、乗員にも立ち入りが制限された船室がある……。
軍の要人か、上級貴族でも乗船しているのだろう。

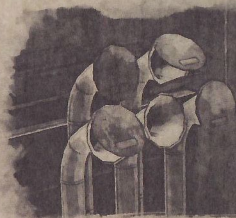


二段ベッドは、
他の旅客船に比べて大きめで頑丈な造りなので、
寝心地はかなり良い方だ。



一等船室は、快適に過ごすには十分な広さだ。
ソファーや田舎ではお目に掛かれないほど
豪奢な酒棚まで備えているものもある。

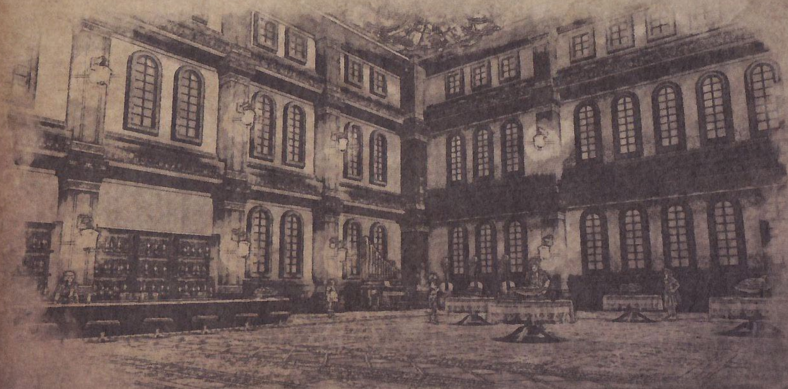




船内は伝声管が張り巡らされ、
船長室から迅速な伝達指揮が
できるそうだ。

実際、これ程広いホールを備えた客船は見たことがない。
船内であることを忘れるくらいだ！

いつも乗る船の感覚でいると、柱が一本も無いのでつい不安になってしまうが。





バルバロス船長

冒険家という肩書きの僕達に
興味を抱いてくれたらしい。

あとで面白いことを
聞かせてくれるそうだ。
海にまつわる伝説など、
色々と訊いてみたい。

——そういえば、ロンバルディア号の
船員たちを見ていて
幼い頃、旅の行商人から聞いた
「海賊」の話をふと思い出したが、
船長はゲーテ海周辺の
海賊について何か知っているだろうか？



カシュー

見習い水夫の僕とドギに
仕事を指南してくれている。

海の男だが、物腰の柔らかな
好青年だ。

僕達が自己紹介した時、
冒険家という肩書きが
聞き慣れなかったのか、
随分と驚いた顔を
していたのが印象的だった。



ドギ

人足として雇われ、
船倉の荷運びやら力仕事を
している、僕の冒険の相棒だ。

軽々と船の仕事をこなしている。
さすがだ。

Dogi

これから通過するゲーテ海域には、
船乗りから恐れられている「セイレン」という伝説の島があると
船長が教えてくれた。



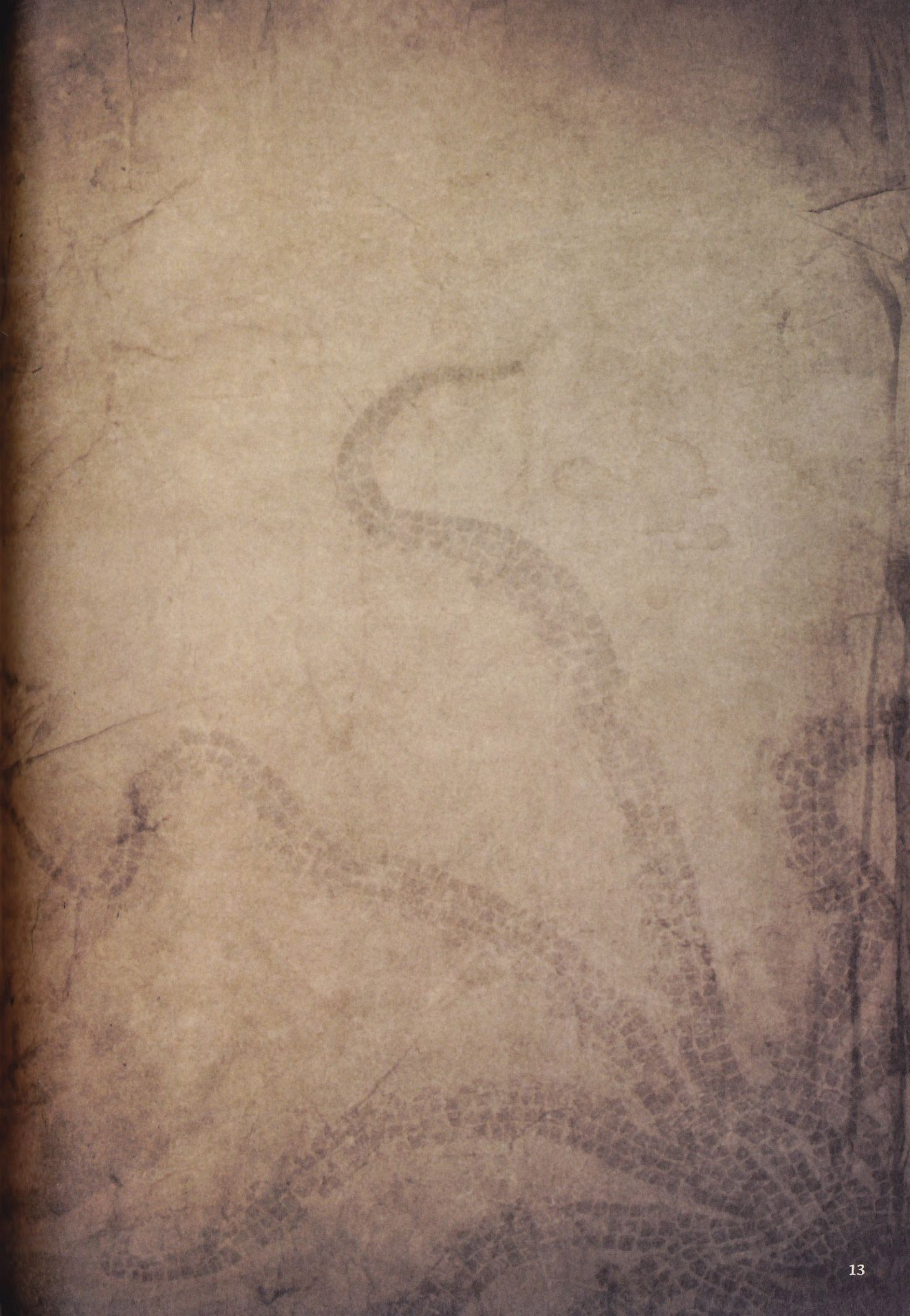
セイレンとは、
グリーク地方の神話に登場する、
歌声で船乗りを惑わして
船を沈没させるという怪物のことだ。

伝説上の怪物であれば、
物語のためにつくられた架空の生物、
と捉えることもできるが
ゲーテ海周辺の船乗りに
長年語り継がれてきた、
というのだから
実在する、もしくは実在したとしても
可笑しくはない。

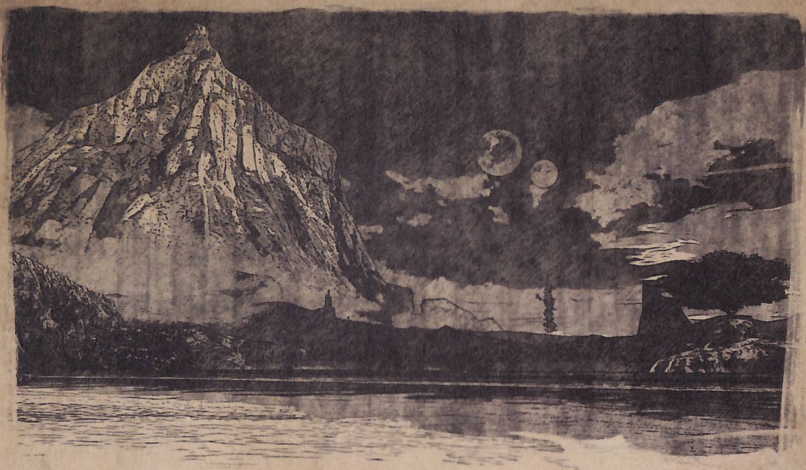
魔法の力によって生み出された魔物の一種
……という可能性も考えられる。
この件については時間のある時にじっくりと考えてみるのも
いいかもしれない。

遠目に島影を望みながらの通過となるそうだ。
夜半でも見えればいいが。

面積はおよそ500平方クリメライと推測されている。
島中央に2000メライ級の山岳が見えるのが目印だそうだ。
確かに島影だけで判別できそうだ。



どこかの浜に漂着した



幸いにして筆記用具はこの通り、無事だった。

沖合に小島があり、その向こうに対岸が見えている。
大きく回り込んだ湾になっているようだ。

目測で軽く1000メライを越す山岳が内陸側に望めることから、
かなり大きな島であることが推測できる。
山岳といえば……ここは、船長が話していたセイレン島なのだろうか？

太陽の高さと位置から、自分が見ているおおよその方角を割り出してみる。
体の疲労を考えると、結構な時間が経過しているようだが…。

最初の冒険の時を思い出した。
もう海に投げ出されるのは勘弁…あの時そう思ったのだが。

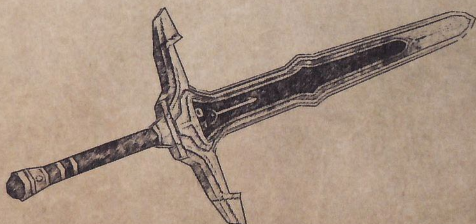
船を襲った、あの巨大な触手は一体何だったのか…？

ゲーテ海域の船を沈めるという神話上の怪物、
セイレンの話が頭をよぎったが、
「歌声で船乗りを惑わす」という
船長の話とはずいぶん異なって
いる。



……それにしても、
ロンバルディア号は、他の乗客
たちは、ドギは無事だろうか？

剣をなくした！



サンドリアの業物も今や海の底だ…。

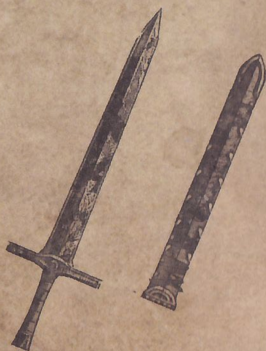
幸いなことに身体は無傷のようだ。
とりあえず周囲の地形を探って把握しなければ。

まずは生存のために、体力が残っているうちに
確保すべきものがいくつもある！

沖合に小島がひとつ。
エレシア各地で目にした、ロダのような大木が一本立っているようだ。

小舟でも調達できればあそこまで辿り着けるかもしれない。





浜で錆びついた剣を拾った。

これは僥倖だ。
刀身がボロボロで切れ味も無いに等しいが、武器があるというだけで心強い……。

水だ！

早くも清流を発見し、飲み水を確保できた。

生き返った気分だ。
意識もはっきりしてきた。

この浜に漂着して、早速狼のような獣に襲われたが、
その後も、辺りの他の獣たちが次々と攻撃を仕掛けてくる。

外見からして魔物の類でないことはハッキリと分かるが、
この島の獣たちからはどこか敵意のようなものが感じられるのだ。
奇妙なことだが。



ワーグル

浜で襲い掛かってきた、
狼のような姿をした小型の獣だ。

集団で狩りをする習性を持っている
らしく、群れから離れて単独で行動する
個体を見かけることはない。



レーミット

ワーグルよりも更に小型の獣だ。
小動物と表現しても良いかも
しれない。

恐れる相手ではないが、意外にも
凶暴な性格をしており、尻尾の
大棘でこちらにダメージを
与えようとしてくる。



モルヴィ

エレシア大陸でも見られる、
モグラ科の獣だろう。

距離を取っていれば何もしてこないが、
一歩でも縄張りの範囲内に足を踏み
入れてしまうと土中から掘り起こした
大きな土塊を投げつけてくる。

島で生存者に出会った！



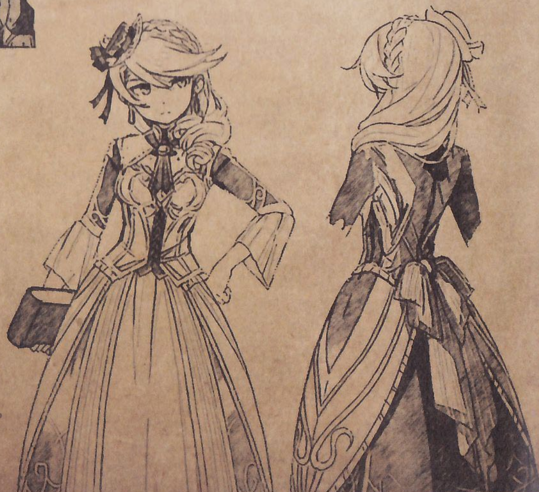
ラクシャ

小川で水浴びしているところに
鉢合わせてしまった。
少々、間が悪かったようだ。

彼女の話によれば、
ロズウェル家というガルマン地方の
貴族の出らしい。

ロンバルディア号に乗船していた
ことは覚えているが、
どうやらいち船員として働いていた
僕のことは覚えていないようだ。

LaXia
von
Roswell



船内で見かけた時は
もっと違う印象だった
ような…？

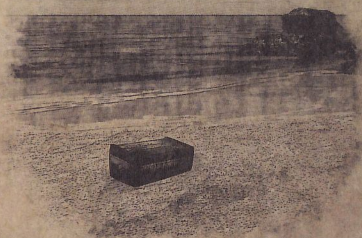
あの服装を見る限り、
恐らく漂着時に着て
いたドレスを引き裂いて
動きやすくしたのだろう。

凪の入り江

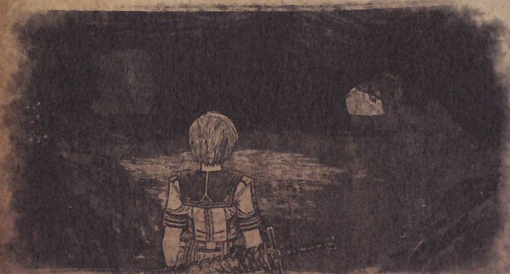


Calm Inlet

拠点に最適と思われる場所を見つけた。
見晴らしの良い高台があり、川も近い。
入り江がすぐ側だし、雨露をしのげる洞窟もある。
これはかなり幸運な展開だ。



この入り江には、漂着物も
頻繁に揚がるようだ。



休息所も確保。



ラクシャが人影を見たそうだが…
入り江近辺は一通り見て回ったので、
さらに洞窟の奥に向かう。

冷んやりした微風と、
水流の音が聞こえてくる。

水音の洞窟

洞窟内には外光が射し込んでいて空間全体を照らし出している。

これなら火を起こす必要もなさそうだ。
このまま探索を進めてみよう。



Cave of Drop

ブアル

恐らく島コウモリの一種だろう。

洞窟内を頻繁に飛びまわっており、
時折肥大化した鼻から出す音波で
襲い掛かってくるが、体力も低く、
それほど脅威ではない。



アナプシー

巻貝の一種、と表現すれば良いのだろうか？

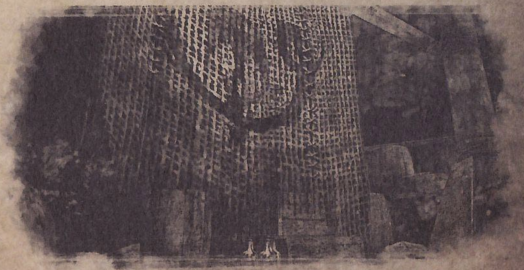
敵意を感じなかったので、試しに近づいて
みると背部に生えた管から水塊を放って
こちらに攻撃を仕掛けてきた。





洞窟を奥へと
進んでいくと、
かなり古い穴倉を
発見した。

近くに人里でも
あるのだろうか？



海賊の紋章か？



幸運なことに軽防具と剣を見つけた。
古びていて刃こぼれも目立つが、
今手にしている錆びた剣よりは遥かにマシだ。

かなり古い遺骸を見つけた。
装束からして、かつてこの島に
上陸した海賊のものだろうか？





ビフテリザ

洞窟内にいた島コウモリと
同種と思われるが、体が
異常に発達している。
親コウモリだろうか？

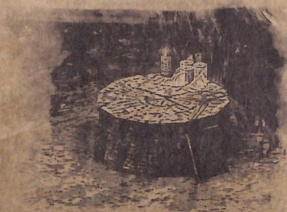
どうやら重すぎて飛べなく
なってしまったようだが、
その分、攻撃力は小型
コウモリとは比べものに
ならない。

Byfteriza

洞窟の外は断崖絶壁の
行き止まりだったが、
船長に出会った！

ラクシャが見た人影は
どうやら船長だったようだ。



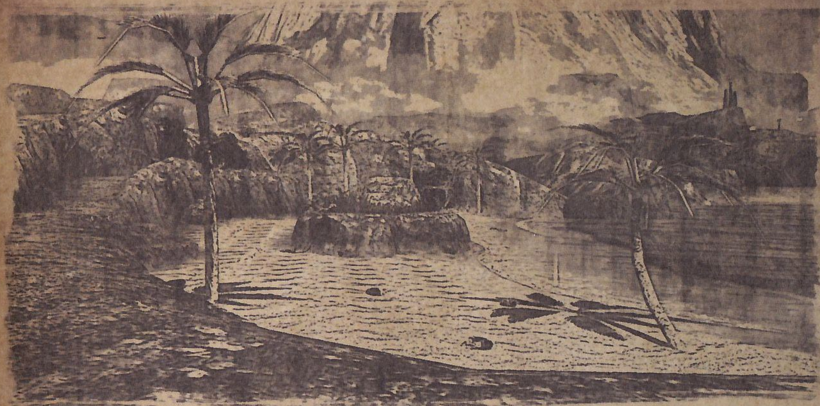


入り江に戻り、バルバロス船長と
状況の確認や意見交換をする。

船長のアイデアで、
入り江に簡素な調薬場が作られた。

船長がここに拠点を設営する間、島の地図作成を兼ねて
ラクシャと周辺の探索をしてみよう。

名知らず海岸



Nameless Coast

入り江から出てすぐ、丘陵に面した
白い砂浜が続いているようだ。



拠点正面の切り通しを
抜けた先に向かった。



砂浜に出ると、
人間の足跡を発見した。

足跡の形からして、それほど
時間は経っていないようだ。
やはり、僕たちの他にも
この島に漂着した者がいる。
ラクシャと二人で
この足跡を辿ってみよう。



鳥鳴き岩

やや沖合に聳える
大岩に、たくさんの
海鳥が巣を構えている。

遠目にも上空を旋回する
海鳥が目立って
良い目印になる。

原生林

海岸線沿いの丘陵にできた谷間は、他と植生が異なっている。
沼の匂いと密林のような濃密な空気がここに留まっているようだ。



丘陵地帯

原生林を抜けると、
そこには広大な
丘陵地帯が広がっていた。
さらにその向こうには、
奇妙な岩肌が
姿を覗かせている。





夕暮れの中、
岩場の隘路に向けて
進んでいった。

野営地

この辺りは獣たちの気配を
感じない。
安全であることを確認し、
手近な材料で手早く
野営地を設営した。

まさか、セルセタでの経験が
無人島の漂流生活に
役立つとは。



今後も出先の拠点となるように、
このような野営地をあちこちに残していこう。



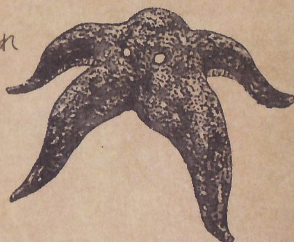
マルトゥ

浜辺に生息している軟体生物。先端の触手のようなものを器用に動かして移動するようだが、その行動範囲はかなり狭く、普段は殆ど動かない。

島内では大人しい部類の生物なのだが、近づいた相手を敵と見なした途端、凄まじい回転で縄張りの外へ追い払おうとしてくる。

ヴェアスデーラ

巨大化したヒトデのような生物で、個体数はそれほど多くないようだ。動くものを捕食しようと襲い掛かってくるが、その見た目に反してかなり機敏な動きをするのは意外だった。



体力もかなりのもの。まともな武具を調達するまではやっかいな相手になるかもしれない。

何だ？この異形の獣は！？

巨大な爬虫類のような姿の獣に遭遇した。ラクシャやサハドの協力もあり、何とか撃退には成功したが……途轍もない、生物としての凄みを感じた。

いずれにせよ、これは緊急事態だ。あんな獣が島にいると分かった以上、一刻も早く生存者の捜索を進めなければ……！



アヴァロドラギル

サハドに襲いかかろうとしていた獰猛な爬虫類型の獣。鋼鉄のような皮膚はあまりに強靭で、３人がかりでも止めを刺す事はできなかった。



ヴォルロフ

草原地帯に生息している狼の一種。
浜で見かけた同種のワーグルよりも体が一回り
大きく、その分攻撃性も増しているように感じる。

対処方法は分かっているつもりだが、狼らしく
群れで襲ってくることもあるため、油断は禁物だ。



ラーノーネン

昆虫の一種で、恐らく巨蝶の幼体の姿だろう。近づいてみて
分かったことだが、二又に分かれた頭部のツノから凄まじい
刺激臭を放っており、振り回しながら周囲を威嚇してくる。

やっかいな事に、毒性の粘液も持っているようだ。
解毒薬を携帯していない場合は避けた方が
良いかもしれない。

サハド

砂浜の足跡を辿った先で出会った、
グリーク地方の漁師。
クレテという島の出身らしい。

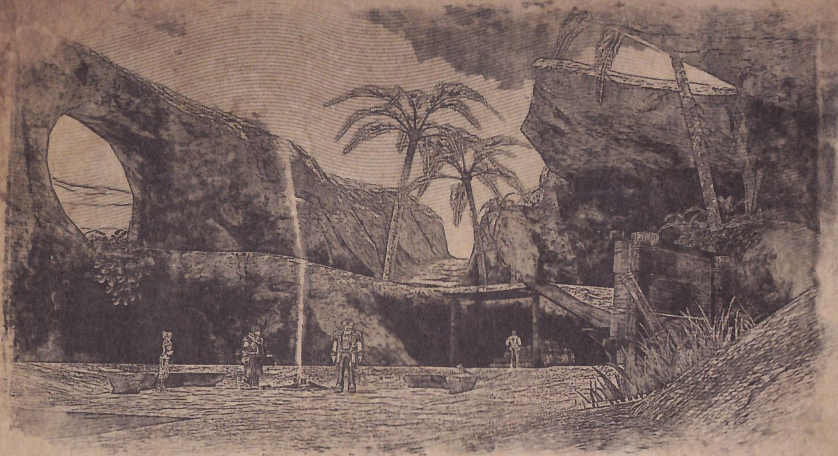
僕たちが漂着したこの島が
《セイレン島》であること、
更に、セイレン島にまつわる
噂話まで知っていた。
さすが地元民というところか。

オドオドとしているところもあるが、
巨大な錨を使ったあの戦いぶりを
見るに、膂力はかなりのものでは
ないだろうか？
漁師ということであれば、海や船に
関する知識もあるだろう。
このまま、船長や僕達に力を貸して
くれるとありがたいのだが……。



Sahad Nautilus

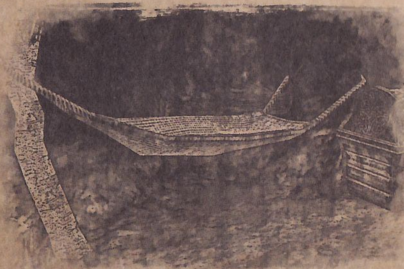
拠点改め「漂流村」



The Drifting Village

探索に出ている間に、船長とドギが
拠点として最低限必要な設備を整えてくれた。

全員で話し合った結果、とりあえずこの拠点を「漂流村」と呼ぶことに決めた。
「漂流村」……冒険小説に出てきそうで面白い名称だ。



僕のためにドギがハンモックを用意して
くれた。これなら快適に眠れるはずだ。



ラクシャから服をもらった。
確かに船員服よりは
機能的で探索向きだ！



倉庫

しばらくはここを
資材置き場として利用しよう。

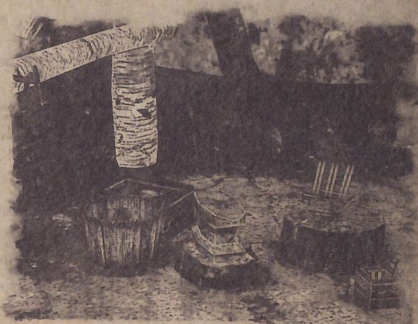
限りある資源で
生活しなければならない――
「持ち出すときは物々交換」が
漂流村での当面の決まりとなった。

鍛冶場

入り江や洞窟で見つけた
金床と錆びついたハンマーで
それらしい設備を整えた。

簡単な手入れなら自分たちで
何とかなるかもしれないが、
このままでは本格的な鍛冶は
無理だろう。

鍛冶の知識を持った者でも
いればいいのだが……。

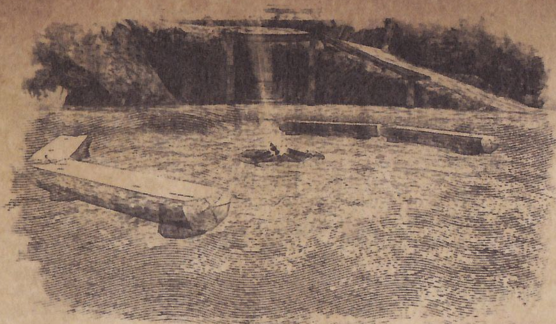




調薬場

器具は粗末なものしかないが、
単純な調薬であれば大丈夫だろう。

しかし、
薬を入れておくビンが足りない。
運よく入り江に流れ着いたりする
ことはあるだろうか？
とにかく、薬を入れるビンを
手に入れないと……。



中央広場(と呼ぶことにした)には、焚火とドギお手製のベンチが設置された。探索からの帰還時は、この焚火を囲んで皆と情報交換をしよう。

余っていたベンチは高台に設置された。
一時の息抜きにも利用できるだろう。



バルバロス船長がこの島で見つけたオウムで、
あっという間に手懐けてしまった。

驚異的な早さで人間の言葉を
覚える能力を持っているらしく、
出会って間もないのにある程度
人語を理解し、おぼつかないながらも
会話が成り立っている。

ここまで賢いオウムは
これまでに見たことがない。



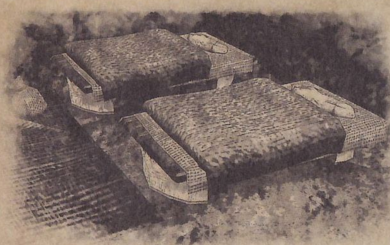
命名、
リトル・パロ

掲示板

探索がてら、漂流村の
設備拡充に必要な物資を
収集することになった。

資材集めだけでなく、
色々な相談事が貼り
だされている。



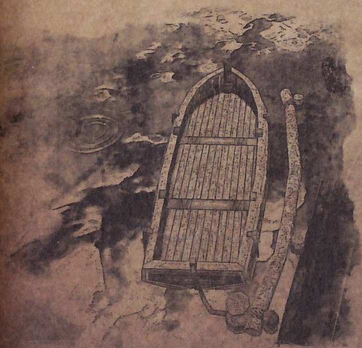


ベッドの作成で
より快適な睡眠が
取れるようになった。

男性の視線が気になる、というラクシャの意見で
女性休息所の入口にカーテンを設置することなった。
これはアリスンさんが仕立てたものだ。

しかし、貴重な布素材をカーテンに使用することに
なるとは予想外だった。女性にとって、男性の目線は
それほど気になるものなのか……？

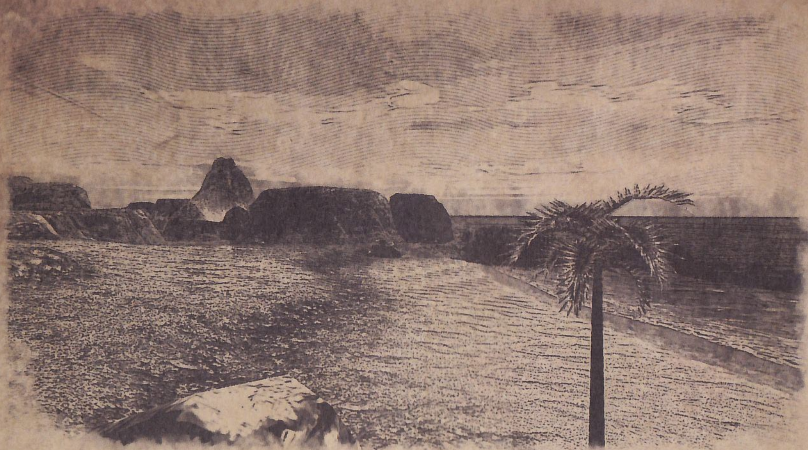




小舟だ！

漂流者全員が乗り込んで島から脱出……
というのはさすがに無理だが、それでも、
この小舟があれば重い資材の運搬が
うんと楽になるに違いない。

白浜岬



Cape of White Sands

どうやらこの岬は島の南端にあたるらしい。
視界の先に広がるのは、水平線ばかりである。

珊瑚の岩と白浜とが織り成す景観が大変美しく目を引く。



碧岩

目印に最適な変わった
景観を見つけた。

今後も目印になりそうな
景観は地図に記していこう。



オーガニオン

白浜岬近辺で異常繁殖している
大型の甲殻類。

外見からカニの一種であることが
分かるが、砂浜の上でも自由自在に
飛び跳ねる跳躍力を持つという点は
他の地域では見られない特徴だろう。



シーピス

海岸線沿いを浮遊している
奇妙な姿形の硬骨魚だ。

元々は水中で生活していたためか、
水辺から離れようとしないので、
陸地まで追いかけてくるようなことも無い。
ただし、遠距離から放ってくる圧縮された
海水には注意しておこう。



セイバオット

岬のあたりで発見した大型の海生獣。
単独で行動することが多いが、群れで甲羅干しをすることもあるようだ。

性格はかなり凶暴で、人間が視界に入るやいなや攻撃を
仕掛けてくるので不用意に近づくのは止めておこう。

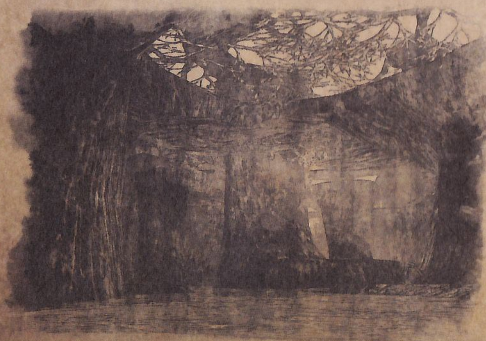
隆起珊瑚の森



Woods of Elevated Coral Reef

古の巨大珊瑚礁が隆起してできたような、
変わった景観の森だ。複雑な階層構造が広がっており、
白亜の壁に覆いかぶさるような緑が映えて神秘的な雰囲気を生み出している。

湿度もそれほど高くなく、過ごしやすい環境ではあるが
島の獣たちがここでも攻撃的であることに変わりはない。



飛び降りてはまた登り…。

先へ進むためには
階層を行き来しながら
道を探さなければならない。
まるで立体迷路に
迷い込んだ気分だ。



レプレオン

自在に体を変色させ、景色に溶け込むという特殊な生態を持つ爬虫類型の獣。

珊瑚の森に相当数いるらしく、探索中、急に目の前に姿を現して集団で襲い掛かってくることが何度もあった。



ラルフォ

特に足場の悪い場所に生息している珊瑚の一種。

移動するようなことは無いが接近する個体を感知すると周囲に胞子を飛ばして危険を遠ざけているようだ。



ピーニャ

水辺に棲息している獰猛な肉食魚。水中の動きが非常に素早く、水に落ちてきた獲物に問答無用で襲い掛かってくる。

珊瑚地帯は足場がもろく、崩れやすい場所もいくつかある。誤って水の中に落ちてしまわないよう、注意深く進まなくては……。

セルペンタス

珊瑚の森の最下層で遭遇した
陸ガメのような巨大生物。

背に無数の毒嚢を持っている
らしく、時折、木々を揺らす程の
瘴気を放ってくる。

手持ちの薬も無く、毒の
対策も取れない状況では
こちらが圧倒的不利だ。
何とか対応を考えないと。



Serpentus



海賊と思しき遺骸から
グローブを頂戴した。



グリップグローブ

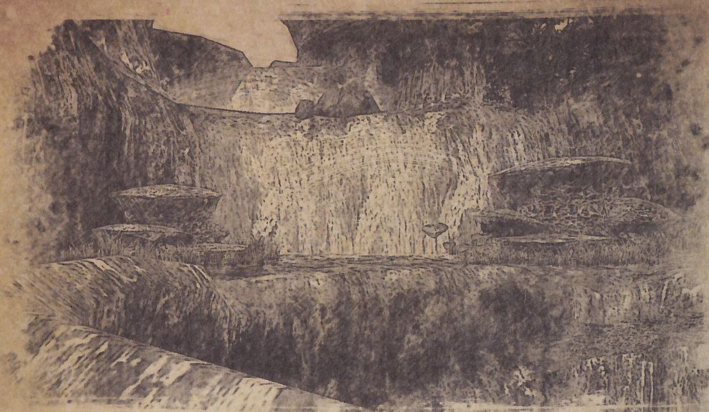
よく使い込まれている厚手のグローブだ。

古びてはいるが、握りの部分に付いている
滑り止めに損傷はない。
これなら充分使えそうだ。



森の探索中、そこかしこで
壁面に絡み付いた
ツタ植物を目にした。

……このグローブがあれば
何とかよじ登ることができる
かもしれない。
とにかく試してみよう。



七色の滝　幾重もの虹が掛かっている巨大な滝を発見した。

滝壺まではかなり深いようだが、虹を拝める地点では
向こう岸に渡ることができそうだ。

クラリオン

珊瑚の森の奥地で体色を変え、周囲の風景に溶け込みながら
獲物を待ち構えていた爬虫類型の巨大生物。

こちらが仕留めようとする度に、まるで魔術師のように目の前から
姿を消してしまうやっかいな相手だ。
しかし、森を抜けて先へと進むためには何としても倒さなければ。



遠鳴り浜



Seashore with Distant Roaring of the Sea

島の西端に位置する小さな浜に出た。高台につながる長い坂が伸びている。



メタボリカレス

浜に生えている他の椰子と比べ、
「でっぷり」とした異様な太さの幹をしている。



ルシーガ

沿岸海域を探索している時に
襲いかかってきた大型の海鳥だ。

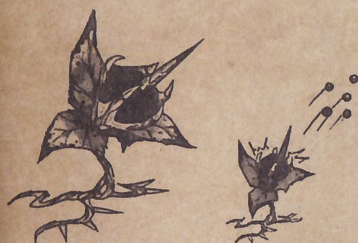
異常に発達したくちばしは、
飛行しながら水中の魚を捕獲する
ためのものだろうか？

パラセコイア

高台にただ一本、天の支柱のように
屹立する巨大セコイア。

灯台代わりに方角を教えてくれそうだ。
後で地図にも記しておこう。





ピュード

茎、もしくは根と思われる部分を
動かしながら自立移動を行う
奇妙な植物。

硬い種を飛ばすことがあるが、
付近を移動する動物に種を付着させ、
種を遠くまで運ぶための行動なのかも
しれない。



グレモアード

以前、エウロペ地方で
「走鳥」という絶滅した鳥に関する資料を目にしたことがあるが、
その資料に記載されていた特徴とよく似ている……。

飛行能力が無く、地上を機敏に走り回るその姿は
まさしく「走鳥」そのものではないか？

漂流村



The Drifting Village

漂流者の救出が進むに連れ、彼らの技能を生かした
施設が作られていく。

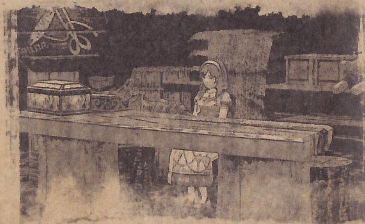


Alison

アリスン

漂流中に夫と離れ離れになって、途方に暮れていたようだ。
探索前にドギが話していた「南の浜の足跡」という情報の
おかげで彼女を発見することができた。

女性の漂流者ということもあり、ラクシャが話し相手に
なってくれているが、時折顔色を悪くしているように見える
のが気にかかる。漂流村の生活で体調を崩しているのだと
したら、早めに相談しておいた方が良いかもしれない。



仕立て屋

皆の役に立ちたい、
と彼女から進んで
始めた。

「仕立て屋」というのは意外に様々なことに精通している
らしく、縫い物だけなく、細かな装飾品や軽量な防具と
いったものまで作る事ができるそうだ。

カーラン卿

探索中に出会った、割と横柄な態度の中年男性。

ロマン帝国の貴族だそうだ。
……確かに、その身なりや漂流者たちへの
接し方を見ていると頷ける。

足の怪我は見た感じ軽傷のようだが……。



Sir Curran



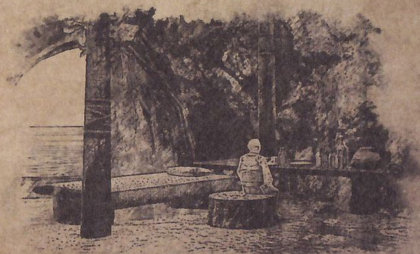
Kiergaard

キルゴール

カーラン卿の怪我の
手当をしていた開業医だ。

物腰が柔らかで、
初対面の時の丁寧な言葉使いが印象的だった。

村を案内した後、早速漂流者たちの怪我を見て
もらえることになった。薬の調合にも通じているらしく、
とても頼もしい存在だ。



診療所

診療用の簡易ベッドまで
備わった漂流村の診療所だ。

自分たちで行っていた調薬も、
これからはキルゴール先生にお願いできることになった。
今後はより探索に集中できるようになるだろう。





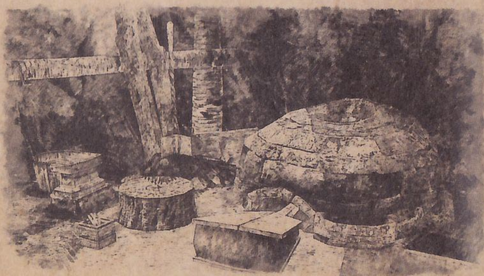
カトリーン

ロムン帝国で鍛冶職人として
その腕を振るっているらしい。

背後から接近した僕達の気配を察するあたり、
ただ者ではないと感じていたが、
まさか一目で僕達の武具のみならず、
身体の状態まで正確に見抜いてしまうとは。

同郷にも関わらず、どうやらカーラン卿とは
犬猿の仲のようだ。

武具工房



金床だけだった鍛冶場に
炉が建造された！

カトリーンさんの話によれば、
この設備であれば武器や防具
だけでなく、日用品、農器具と
いったものまで作れるそうだ。

資材は必要だが、漂流村で必要となる道具についてはこれで一式揃えることが
できるかもしれない。後でドギにも相談してみよう。



山側の防衛強化のため、
高台ベンチ横の脇道にも
バリケードを設置した。

敵意の無い巨大な鳥？が高台に居座っている。
しばらく観察してみたが、動く気配はまったく無いようだ。大変興味深い。



ハシビロコウ

正面からじっと
こちらを見つめてくるが
微動だにしない。

魚を見せたら微かに
反応があった。
食べたいのだろうか？



ブルーサディ

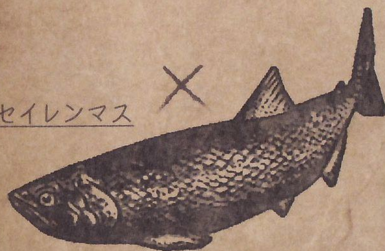




アマナ



セイレンマス





ガーヴィス



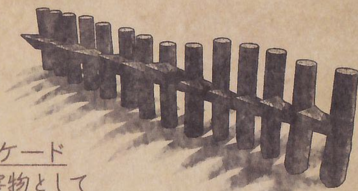
漂流村の「防衛設備」

今後の安全を考慮して、村の防衛設備を強化しておくことにした。



防衛柵

最終防衛ラインだ。
できれば最大限に強化したい。



バリケード

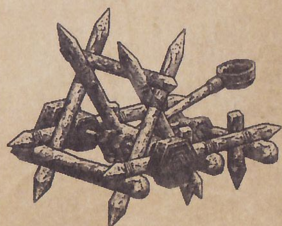
障害物として
設置しておけば、
敵の直接進入をある程度防ぐことが
できるかもしれない。防衛柵に辿り着く
までの時間稼ぎとして利用する手もある。



デコイ

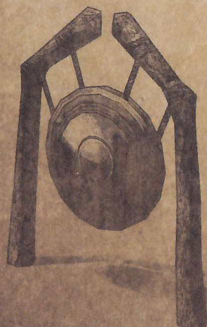
拠点周辺に肉片を
吊り下げておこう。
単純な獣であれば
気を取られてしまうハズだ。

しかし、生肉となると
定期的に取り換えておく
必要があるか……。



投石機

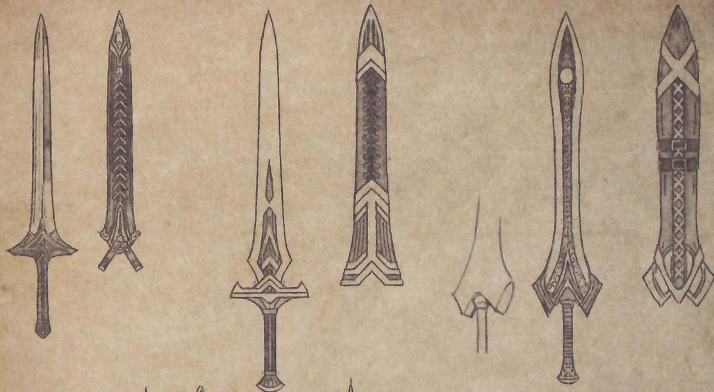
島にある素材で組み上げたため、
それほど精度が高いものではないが
獣たちが集団で襲ってくる場合は
有効な手段になるだろう。相手への
けん制としても役立ってくれそうだ。

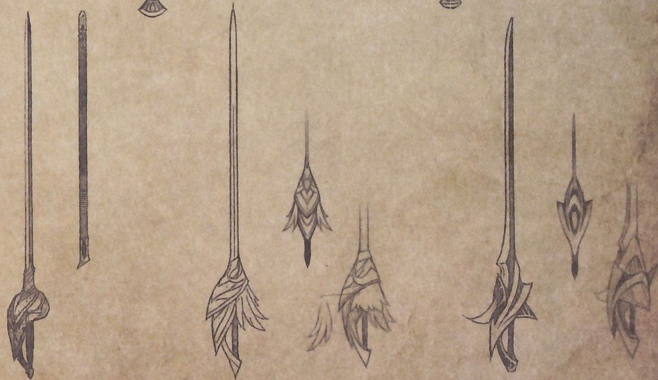


スタン銅鑼

鍛冶場で作った大型の銅板を組み合わせて
製作した。銅板の中心を叩くと周囲に大きな
反響音が鳴り響くため、上手く利用すれば
獣たちを怯ませることができるかもしれない。

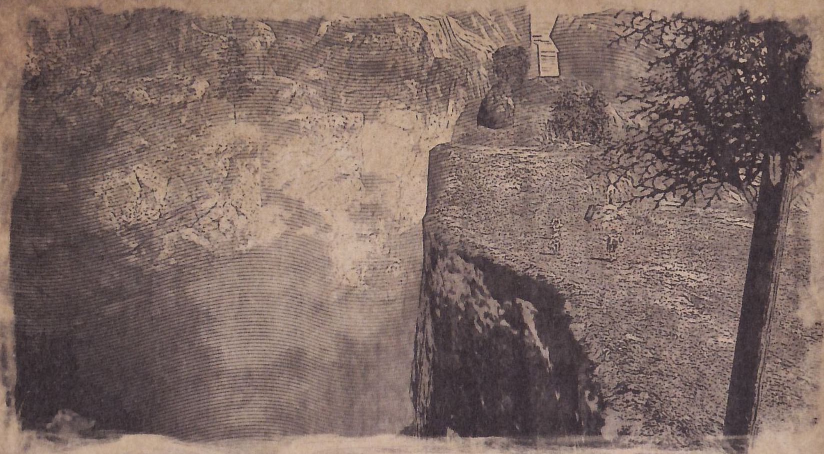
カトリーンの武器錬成記録







大峡谷流域



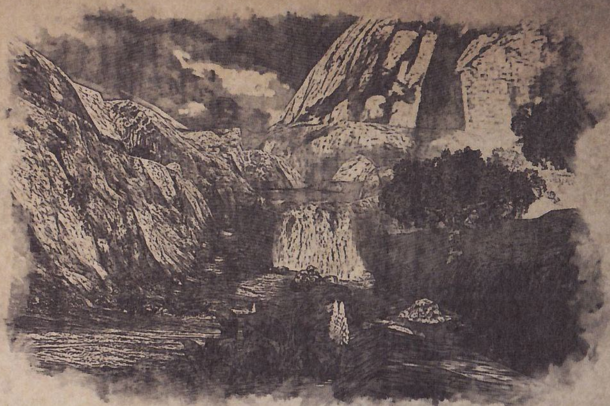
The Paranks Valley

セイレン島中央、山岳地帯との間を隔てている最大の難関は、この大峡谷だ。
これまでの探索ではこの峡谷を超えることのできる地点を発見できなかった。
南側の未踏破地点まで足を延ばせば、何らかの手段を見出せるのだろうか……。

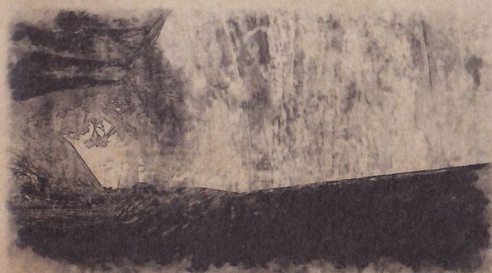


この地域は、
島の南側における
中心に位置している。

周辺の各地域との
位置関係を再確認して、
北側へ渡る手段を
探らなければ。



山岳からの水流が峡谷を抜け、海へと注ぎ込んでいる。



滝の裏は奥に窪んだ地形になっていて、ここから見るとまるで水のカーテンだ。
裏側をまわり込むようにして、対岸に抜けることができた。

滝を抜けたあたりから急に視界が悪くなった。この地帯は深い霧が立ち込める森になっているようだ。

そして、この森には僕たちが戦ったあの古代種よりさらに大型のヤツが棲み付いているらしい。



霧の中で古代種を相手にする、というのは最悪の状況だ。
相手に気付かれないよう、木陰に身を隠しながら慎重に進まなくては……。

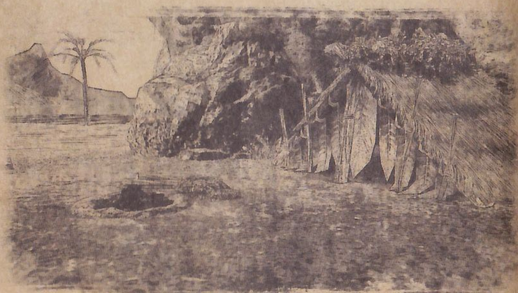


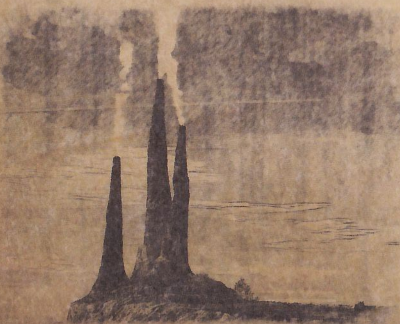
何とか霧深い森を抜け、
浜に降り立つとそのまま
湾に沿って進んでいく。

その先に、峡谷側へと
繋がる丘陵地帯が
姿を表した。

このまま探索を続けたいところだが、先程の古代種との遭遇で体力的にも、
精神的にもかなり疲弊している。ラクシャとサハドの体調も心配だ。

ひとまずこの付近で野営をし、
体制を整えるべきだろう。

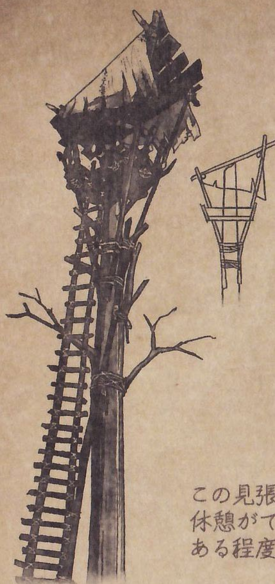




煙突岩

村からもよく見えていた
噴煙あるいは蒸気を出している、
石筍の様な形の岩。

じっくり調べてみたいものだが…。



見張り台を発見した！

僕たちよりも前に漂着した
何者かが建てたもののようだ。

梯子を上った先の小屋で
たくさんのメモが貼り付けてあった。

風雨に晒されていたためか、
文字の判読が困難なものもあったが、
残されていたメモによるとどうやら例の
《T》なる人物がここに残していったようだ。

生きているとすれば、
まだこの島のどこかにいるのだろうか？

この見張り台からは、セイレン島の南部を一望できる。
休憩がてら、感覚で仮埋めしていた地図の未踏部分を
ある程度修正することができた。



スプラート

この地域に生息する巨大な飛行型の昆虫だ。
見た目は随分異なるが、
恐らくハエの一種ではないだろうか？

発達した腹部に毒性の体液を溜めこんでおり、
高圧で射出して外敵を攻撃するようだ。
不用意に近づくのは止めておこう。

ドゥーナ

木を穿つほどの発達した
巨大なツノを持っている。
甲虫の一種だろう。

全身を外殻で覆っているため、
剣やレイピアでの攻撃では殆ど
ダメージを与える事ができない。





スポゥン

発達した根を使って周囲を自在に動き回る
大型の肉食植物。

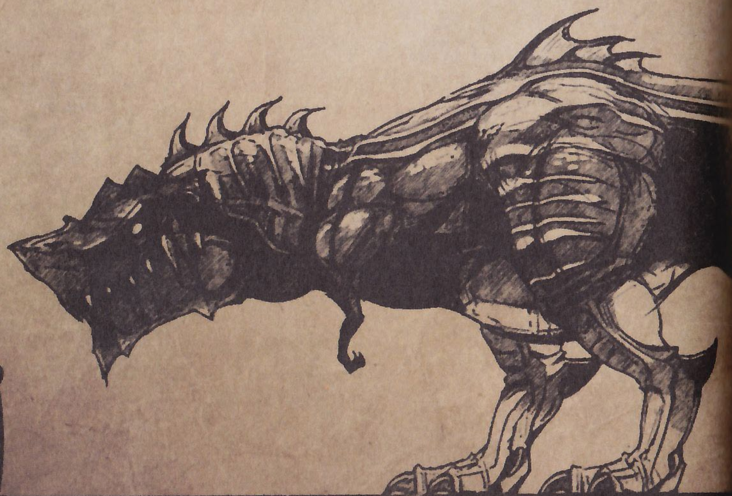
花弁のあたりから種子をまき散らす、という
植物らしい行動を取っているが、
その種子の大きさは人間大。
誤って直撃すれば、致命傷にもなりかねない。



リカード

波打ち際を好む習性がある
甲殻型の生物。

島の中では脅威度の低い
相手ではあるが、獲物を目掛けて
器用に飛ばしてくる泡には注意しておいた方が良いだろう。





イルモアード

強力な脚力で突進し、発達した太い嘴の一撃で獲物の骨を叩きわってしまう。

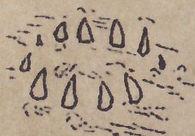
突進力と攻撃力を身に付けた代償として、鳥が本来持っている飛行能力を無くしてしまったようだ。



サンディール

砂浜に潜み、獲物を待ち構えているウツボのような姿の軟体生物。強靭な顎と鋭利な歯を持っており、足元から突然襲い掛かってくる。

砂浜からうっすらと歯が見えているため、注意深く観察していれば攻撃を避けながら進むこともできるだろう。





ギガン・タイラン

霧深い森に潜み、地響きとともに現れる凶暴な大型古代種。こちらの姿を認めた瞬間、猛スピードで襲い掛かってきた。あのまま霧の中で戦っていたら八つ裂きにされていたかもしれない。

今後、あの森を通り抜ける必要があったとしても絶対に遭遇を回避するべきだ。

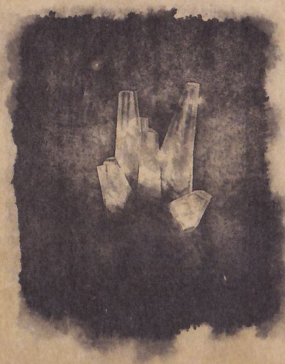


Limestone Cave Behind Falls

滝裏の鍾乳洞

大峡谷流域の滝の裏側に
鍾乳洞を発見した。
仄かに光るキノコや水晶はある
ものの、そこはほぼ闇の空間だ。

どうやら階層構造になっている
ようだが、ここまで暗いと滑落の
危険も増してくる。



叩き割ると断面部分がしばらくの間発光
するという、特殊な性質を持つ水晶石だ。

僕達にとっては貴重な光源となるが、
暗闇に潜む獣たちにとってはいささか
刺激が強すぎるようだ。

もう少し点在していれば、
探索も捗るのだが……。



クラマタンゲ

暗闇に潜んでいる巨大キノコ。
光を苦手としているらしく、
洞窟の外では見かけたことがない。

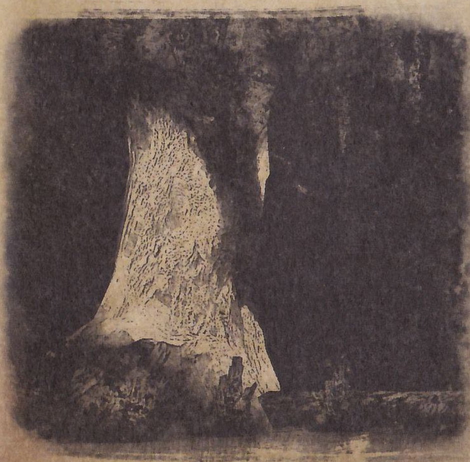
麻痺性の胞子を持っているので
恐らく食用には向いていないだろう。



エルカオータ

鍾乳洞の水溜りで見かけた、
鳴き声が独特な両生類。

付近で水晶石を叩き割ったときに
発光の衝撃で気絶してしまった。
キノコと同じく、やはり光が苦手なようだ。



乳白色の鉱脈

この鍾乳洞は内部の空間が
思いのほか開けているため、
暗闇の中で白く輝くこの鉱脈が
探索中の目印となってくれる。
光を嫌う獣たちが周囲に寄って
こない、というのもありがたい。

この岩の付近では鉄鉱石や
鍾乳石を多く採れることも
分かった。
早速漂流村に持ち帰り、
資材として利用しよう。

漂流村



The Drifting Village

村の象徴として中央広場に見張り台を建立した。
実用的な防衛設備でありながら、これは漂流者全員の団結と絆の象徴でもある。

居住空間や高台のベンチ周りも整備された。
無人島という環境にあって、
暮らしの快適さを求める余裕が生まれてきたことは喜ぶべきことだろう。

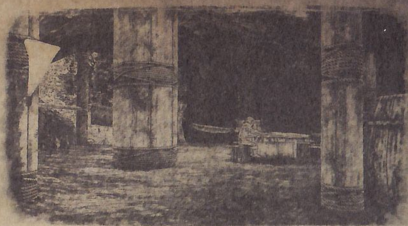
船長も本格的な脱出艇の建造計画を練り始めたようだ。
見張り台の建設は、その予行的な意味も含んでいたのかもしれない……。



入り江の周囲が一望できるように
なり、より見張りがし易くなった。

ドギ主導のもと、他の防衛設備の
増強も始まったようだ。

休息所には大きな柱を入れた。
ベッドやテーブルなどの
家具類も充実してきた。





高台に花壇ができた。
女性たちが休憩に訪れる。





Sister Nia

シスター・ニア

星刻教会の敬虔なシスター。
彼女も客としてロンバルディア号に
乗船していた。(甲板で一人、遠くの海を
眺めていた姿を記憶している)

島に流れ着いた後、食糧を求めて
鍾乳洞の奥へと入ってしまったようだ。

てっきり食用には不向きだと思っていたが、
彼女の話によれば、鍾乳洞のキノコは
そこそこ食べられるんだとか。

……今度試してみよう。

漂流村も随分賑やかになってきた。

しかし、漂流者全員が乗り込む脱出艇となれば
建造にある程度の期間が必要となるだろう。
そのためには、ここでの生活をより盤石なものにしなくてはいけない。

そして、更なる生存者がどこかにいることを信じて
島の北側へと探索範囲を広げていこう!

獣たちの丘



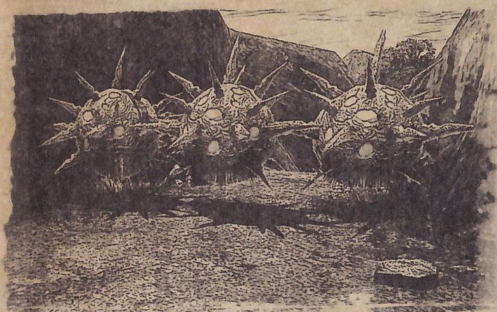
Beasts Hills

峡谷から海岸線へ下る、起伏や切り通しの多い草原地帯。
ここから海岸線や密林、浸食谷など多くの方面へ接続可能だ。

探索の中継地点にもなるため、南北２ヵ所に野営地を築くことにした。



草地が途切れる北端が一つ目の野営地だ。
ここから峡谷沿いに進むと暗く深い谷へと入っていく。



丘を下った先に巨大な昆虫
の巣が道を塞いでいた。

巣を破壊してしまえば道が
開けるかもしれないが、
下手に刺激を与えてしまうと
何が起こるか分からない。
ましてやここはセイレン島だ。

危険を避けつつ、巣を駆除
できる方法が見つかれば
良いのだが……。



南東方面の密林に面したあたりに二つ目の野営地を設けた。
この先からは強烈な湿気と緑の匂いが漂ってくる。

霧の森のように大型の古代種が潜んでいる、
という可能性も充分に考えられる。
この先は慎重に進む必要があるか……？



ブルトビトゥ

草原地帯に生息する
四足歩行型の大型獣。

硬質化した額と発達した
牙を武器に猛突進をかけ、
狙った獲物を貫き押し潰すという恐ろしい攻撃を行うが、
突進中は体の制御が効かないのか、一直線に進む事しかできないようだ。



ザンヴェスパ

非常に凶暴な性格をした蜂型の昆虫で
一撃必殺の針による突撃攻撃を仕掛けてくる。

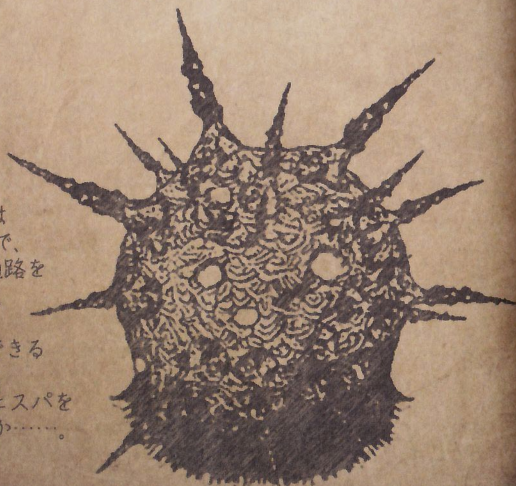
単体であればある程度対処可能だが、
集団で襲い掛かってきた場合には覚悟を
決める必要があるだろう。

クノス

ザンヴェスパが
作り上げた巨大な蜂の巣。

一般的な蜂の巣の数十倍は
あろうかという程の大きさで、
この巣が草原地帯にある通路を
完全に塞いでしまっている。

巣から大量の蜂蜜を入手できる
ことが分かっているのだが、
下手に刺激を与え、ザンヴェスパを
怒らせてしまうのはマズいか……。





ヴェラルコス

青白い毛並みが特徴的な大狼。

ガッシリとした顎と鋭い牙による
噛み付きも危険だが、身軽な体を
活かした上空からの跳躍攻撃には
特に気を付けておいた方がいいだろう。

ヒュンメル

探索中に出会った謎の青年。
年齢は僕と同じくらいだろうか。

彼もロンバルディア号に
乗船していたと
記憶しているが、
どうやら何らかの
目的があって単独行動を
取っているようだ。

"運び屋"を生業としている
らしいが、初めて聞く職業だ。
身なりや話し方からして、
恐らくエレシア大陸の出身だと
思うのだが…。

彼が手にしていた《銃》という
武器のことも気になる。ラクシャの
話では船の大砲を小型化したもの、
ということなのだが火薬はどこから
入れるのだろう？大砲と同じで、
砲弾は丸い形をしているのだろうか？
――とても興味深い。機会があれば
ぜひ尋ねてみたいものだ。



Hummel Trabaldo

浸食谷



深く切れ込んだ谷は、射し込む光が極端に少なく、辺りは薄暗い。
この独特の地形は風雨の浸食によるものだろうか？
ところどころに空いた虚の向こうには、漆黒の空間が網の目のように広がっていた。

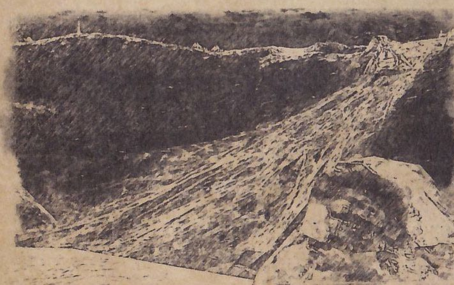


闇の中では水流や獣たちの物音がより大きく反響するらしく、
上手く距離感を掴むことができない。

叩き割ると光を放つ例の水晶石がここの岩肌にも露出していたことは幸いだった。
その僅かな光が、闇の中で歪もうとする僕の感覚を繋ぎ止めてくれたのだ。



外壁は一見の価値ありだ。谷のあちこちを穿ち削ってきた膨大な水流が、
ここで大瀑布となり合流する壮大な光景が眼下に広がる。
長年の浸食に耐えて柱のように屹立する岩には、
吊り橋のようなものがあちこちに架かっている。



吊り橋に見えていたものは、蜘蛛が隙間なく張り巡らした糸だったようだ。

試しに触れてみたが、粘着性はなく、サラサラとした手触りだった。
捕食用の仕掛けではなく、蜘蛛たちが移動手段として張っているもの
なのかもしれない。

これを応用して峡谷の対岸へ渡る事ことはできたが、
残念ながら、その先へと抜けるルートを発見することはできなかった。

藍色の鉱脈

暗闇のなか、
鮮烈な青い輝きを放つ
鉱脈を発見した。

遠くからでも目映い
ほどの光だ。
見つめ過ぎるのは
かえって危険かも
しれない。

ピグラ

漂流村付近の洞窟を
縄張りにしている
島コウモリの別種だと
思われる。

毒を持っているため、
暗闇で襲われるとかなり危険だ。





ステアーダ

浸食谷で岩と岩の間に
糸を張り巡らしていたのは
この蜘蛛たちだ。

糸のかわりに特殊な毒を吐いて
獲物を仕留めているらしい。
光に耐性が無いためか、
水晶石の発光をひどく嫌っている。



タイランウェザー

渓谷一帯を根城にしていると思われる怪鳥。

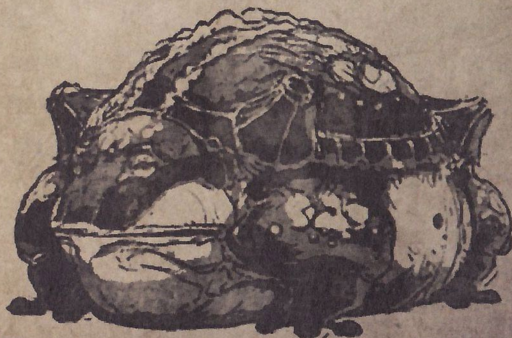
草原のような場所であればある程度
対処可能だが、足場が限定される
浸食谷で低空突撃を避けるのは至難の業。



アングヴォータル

谷間にひっそりと生息している甲虫の一種。

一般的な昆虫より二回り以上も大きく、
岩をも穿つ口吻の攻撃には注意が必要だ。

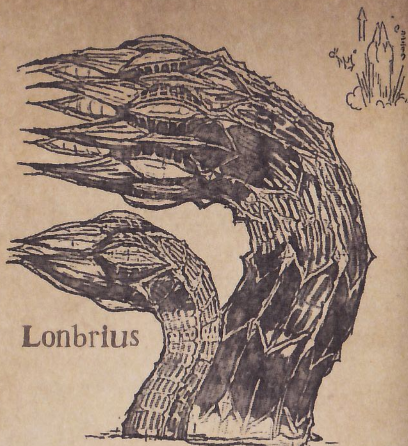


ブルフロドン

浸食谷の奥深くに
棲み付いている、
カエルのような
巨大生物。

狭い場所を好むらしく、
通路を塞いでいることが多い。
人間の数倍の大きさがあるため、暗闇の中にいると壁と見間違えてしまう
こともしばしばだ。

怒らせると危険なので、脇を通り過ぎるときは慎重に行動しよう。



ロンブリウス

地中に潜み、岩盤を喰らう
巨大なワーム。
暗闇の中で自在に動いて
いるようだが、地中で音を
感知しているのだろうか？

成体はさらに貪欲で、
岩盤だけでなく、口に入る
ものは何でも喰らってしまう。





グルガンチュラ

浸食谷の奥深く、深淵に巣食う
巨大な蜘蛛。この辺りで繁殖して
いる蜘蛛の親、つまり女王蜘蛛に
あたる存在だと思われる。

しかし、ワームに対して効果的
だった水晶石の光が一切通用
しないとは……。
突破するには相応の準備が
必要かもしれない。



夜光石

暗闇の中で仄かに光を放ち続けている神秘的な石。
鍾乳洞で見かけた水晶石とは材質が異なるようで、
発光させるために石に衝撃を与える必要もない。

これさえ身に付けていれば、
洞窟内の探索に弾みがつくだろう。



燃石

マグマ溜りの中から取り出したような、奇妙な形の
石を手に入れた。これがあれば、漂流村にある炉の
火力を爆発的に引き上げることができるそうだ。

日の出ヶ浜



Sunrise Beach

大峡谷対岸の先に位置する小さな浜辺で、この場所も岩場に囲まれている。
一通り探索をしてみたが、海岸線を回りこんで島の北側に抜けたり、或いは北の山岳地帯へ直接繋がる——といったルートはここでも見つけることができなかった。



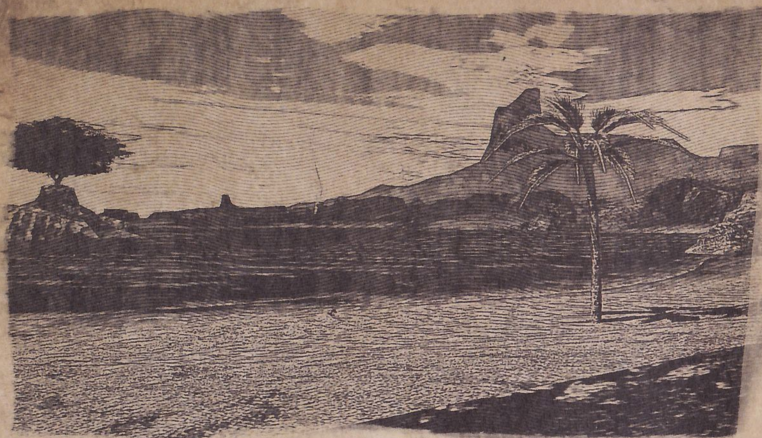
打ち上げられた遺骸

海岸に巨大な海洋生物？
らしき遺骸を発見した。

骨格から推測すると、並みの大型船と同等かそれ以上の大きさはあるかもしれない。

ロンバルディア号を沈めた、あの正体不明の触手の持ち主とも何らかの関連性があるのだろうか？

ロングフォーン海岸



Longhorn Coast

砂浜が草原と丘陵を背負った形で長い湾を形成している。
砂浜が細長いツノに見えるため、ロングフォーンと呼ぶことになった。
湾を挟んで反対側が漂流村のあるあたりだ。ここからは村の煙がよく見える。



グレルシーガ

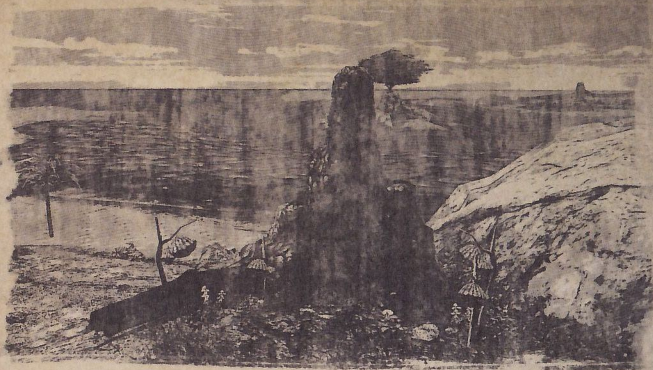
ロングフォーン一帯に生息する海鳥だが、
遠鳴り浜の辺りで見かけたものとは
別個体だろう。

何でも食らうのか、獲物と見れば執拗に
追い回してくる。



グワララーブ

頑丈な外殻を持つ大型のカニだ。
白浜岬で繁殖している個体のように
驚異的な跳躍力は無いが、口元から
噴射される毒霧や致命傷にもなり
かねない大ハサミでの攻撃には
注意しておく必要がある。



蜂塚

海岸後方の高台に巨大な蜂の巣が聳えていた。

周囲の巣からはハチミツを得られるが、
塚本体はそっとしておこう……。



蜂塚の付近を探索している最中、
偶然にもこのナスビを発見した。

どうやらセイレン島で自生している
品種のようだ。
種も手に入れることができたので、
漂流村に持ち帰ってドギに
相談してみよう。

村で栽培するとなれば、ある程度広さのある土地を耕す必要が
あるが、どこか、自由に使える場所はあっただろうか……？

風見丘陵



Wind Vane Hills

漂流村にほど近い丘陵地帯。
ここからは名知らず海岸や隆起珊瑚の森など、島の南西部を一望することができる。
村の横を流れる川の水源も、この長い坂道の途中にあるようだ。



清風の丘

岩肌の小さな花々を揺らす涼風が、仄かな芳香を纏い
吹き抜けていく。静かな心持ちになれる場所だ。

豊かだが厳しい面も多く見せるこのセイレン島において、
こういった場所を見出しておくことは重要だ。



ロガロトビトゥ

草原地帯で見かけたブルトビトゥの
同種だと思われるが、
更に気性が激しい別個体のようだ。

硬質化した額は更に分厚くなり、
突進力も増しているように感じる。



モホロバオデッサ

セイレン島固有の猿の一種と思われる。
知能はそこそこ高く、長い腕で岩石を投擲して
獲物を仕留めるといった狩りを行っているようだ。



Water Source Falls

水源の滝　漂流村に注ぎ込む清流の水源だ。この標高にもかかわらず、
かなりの水量が湧いている。いずれ機会があれば、
潜って調査したいものだ。



ギャルサーク

陸に上がった鮫の一種…だろうか？
陸上での動きはそれほどでも無いと
思っていたが、ヒレをバネのように
使いこなし、高速で飛びかかってきた。
鋭い牙に加えて毒も持っているらしく
かなり危険な相手だ。

水と森の丘



Water & Woods Hills

ここでは人間が狩られる側だ。
とにかく、できる限りヤツらを避けるのだ。

とにかく速やかに、移動し続けなくてはいけない。
一歩でもその歩みを止めてしまえば、
地中から恐ろしい肉食植物が襲い掛かってくるのだ。

野営地

この危険極まりない土地で
漂流者の女性が包丁一本で
逞しく生き抜いていたという
のだから驚きだ。

見た目は一般家庭で使用されて
いる普通の料理包丁だったが、
随分と使い込まれている
ようにも見えた。



ヴァルヴァロキア

集団で狩りを行い、
獲物を取り囲んで残忍に
斬り刻む古代種。

ヤツらには絶対に
囲まれてはいけない。
絶対に。

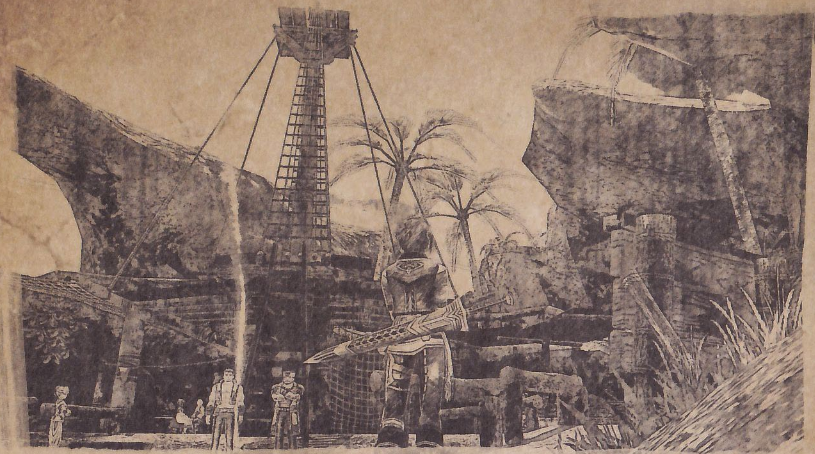
ヘルミトコン

地中を潜行して
真下から獲物目掛けて
喰らい付いてくる
肉食植物だ。



雑草に紛れてしまうと判別は困難となる。
足元には要注意！見つけたらとにかく移動し、
ヤツらの攻撃の手から逃れなくては。

漂流村の発展



Drifting Village

職能を持った漂流者が揃ってきた。
ディナが商人の目利きの力を活かして設定したという
物々交換のレートがやや厳しいような気もするが、
管理面では安心して彼女に任せておけるようになった。

ディナ

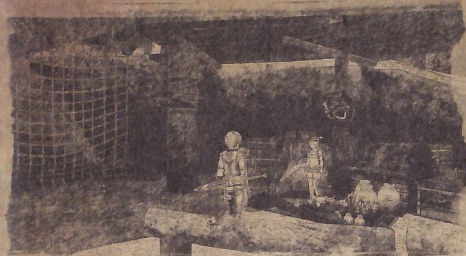
グリーク地方を中心に活躍しているという女商人。
若々しさが内面からにじみ出ているような雰囲気で、
年齢も僕より年下ではないだろうか？

大事な商談をロンバルディア号の事故で
ふいにしてしまったようだが、
漂流村でドギから倉庫の管理を任されるや、
これを交易所に改め商いを始めてしまった。

この事態をむしろ商機と捉えているようで、
何とも商魂逞しい女性だ。

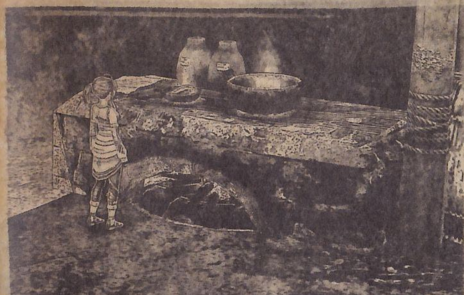


Dina



交易所

ディナのおかげで、
より多くの物資と品物を
取引できるようになった。



調理場

漂着した時には
もうまともな食事は
できないと思っていたが…。

ミラルダ

夫とグリークで料理屋を
営んでいるという女性。

食材の買い付けからの帰途、
漂流する羽目になったらしい。

古代種がうろつく危険地帯で
包丁一本、野営して凌いでいた。
彼女の話によれば、
何と6人も子供がいるのだと言う。
やはり母は強し、
ということなのだろうか？

漂流村を案内してからは調理場と皆の
栄養管理を担当してもらうことになった。







Miralda

レーヤ

ロンバルディア号の甲板を
一人でうろついていた少年だ。

本人曰く、
グリークの富豪ディオール家の
跡取りだそうだ。

ロンバルディア号の甲板から
海に投げ出された後、
ピッカードにしがみついて
何とかセイレン島までたどり
着いたらしい。
そのせいか、一緒に流れ着いた
ピッカードに対しては
随分と思い入れがあるようだ。

ドギから高台での野菜栽培を
任されるついでにピッカードの
飼育も行うことになった。
嫌々ながらも引き受けてくれたが、
これもドギの考えあってのことだろう。





ちゃっかり者の
ピッカード

レーヤの命を救った恩人(恩獣?)らしい。
村にとっては……ナスビの恩人だ。

こいつもそろそろ仲間のピッカードが
欲しいのではないだろうか…。

そういえば、レーヤとの会話の最中
ドギがピッカードの事を「非常食」と
言っていたが、あれは本気の発言
だったんだろうか……?



農場　レーヤが任された畑とピッカード飼育場。
ピッカードを食用として供給する気は無いようだが。

農場の野菜



ナスビ



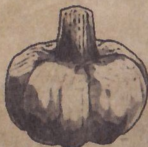
パプリカ



シャインコーン



キャベツ



キングパンプキン



クイーントマト

シュラム密林地帯



Schlamm Jungle Zone

沼地に広がる密林は薄暗く、
濃密な泥と緑の気配が侵入するものを圧倒する。
迂闊に踏み込むと、あっという間に身動きが取れなくなり、
ここに生息する動物たちの餌食になってしまうだろう。

僅かな木漏れ日で見通しはできるが、島に点在する目印が
ここからは全く見えないので、方角が掴み辛い。



ビチルス

沼に多く湧く生物。一見ヒルのようにも見えるが、
攻撃性が強く、頭部の半分以上を占める口が特徴的だ。

沼地の探索中、ラクシャが悲鳴を上げていた。

ルガーディ

泥中から突然襲い掛かってきた殺人魚。
この密林地帯は肉食性の水生生物が
かなりの数いるようだ。



動きが制限される沼地ではこちらが
圧倒的に不利となる。早く切り抜けなくては。

ショットズーラ

湿地に生えていた肉食性の植物だ。

通り過ぎる時に粘液が皮膚に掛かり、
全身の自由を奪われてしまった。
漂流村で調薬した薬を携帯していたのは
幸いだったが、この植物に見かけたときは
注意しておこう。





サラマンダイン

沼地で発見した大型の両生類。

意外なことに個体数はかなり多く、
沼地の探索中、頻繁にその姿を見かけた。

巨大な顎で丸呑みするように獲物を捕獲しているらしく、
人間であっても構わずに襲い掛かってくる。



マガマンドラ

密林地帯に一本だけ生えていた不気味な雰囲気の老巨木。

近寄るものに対して攻撃を仕掛ける習性を持っているらしく、
横に大きく広がった枝葉がざわざわと蠢く様を見ているとまるで悪夢の世界に誘い込まれたような感覚に陥ってしまう。



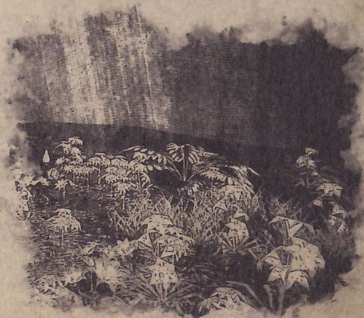
ラスピスース

沼地の奥でひっそりと生息していた、巨大生物だ。

四足歩行型で、
沼にいる他の水棲生物とは姿形も大きく異なっているが、
この密林地域のヌシのような存在なのだろうか？



薬草の群生地



密林を進んでいくと、薬草が群生
している広い空地を発見した。
これほど多様な薬草が密集して
いるのは珍しいのではないか？

自然にできたにしては、
違和感が大き過ぎる……
この空地は誰かの手が入った
ものなのだろうか？



浮き輪靴

かつてこの島に上陸した海賊たちが
沼地を移動する手段として使用していたらしい。
足裏に浮き輪のようなものが装着されている。

これがあれば沼地でもある程度自由に動けそうだ！

奇岩海岸



Strangely Shaped Rock Coast

密林地帯を取り囲む岩山の隙間に
ひっそりと小さな浜が存在している。

沖合すぐのところに奇岩が林立していて、まるで箱庭のような趣だ。
岩場がせり出した地形をしているため、周囲を把握することが難しい。

後日散策してみたが、
どうやら奇岩がある以外は何の変哲も無い普通の浜のようだった。



まるで天に向かって指差して
いるかのような形の奇岩。
自然侵食によって
形成されたのだろうか？
実に興味深い。

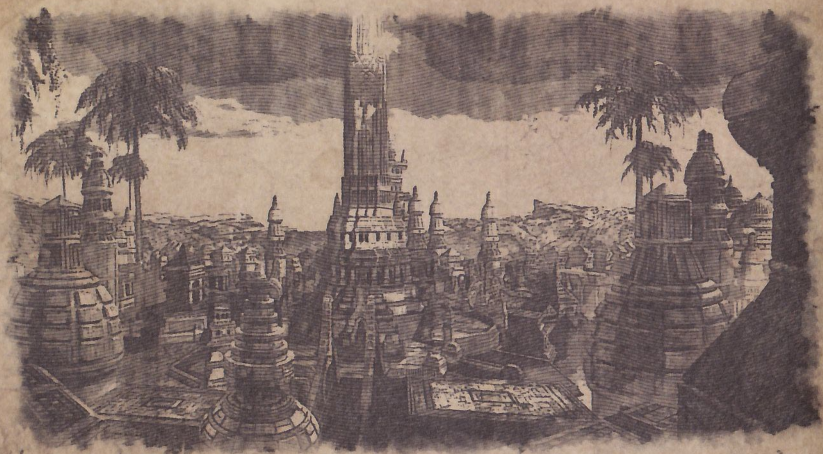
この先の数ページ分は、
何者かによって破り取られたようである。

夢の世界

この島に漂着して以来、奇妙な夢を見続けている。

最初は朧げな記憶として時折ふと思い返す程度だったが、
次第にその夢での出来事が、まるで僕自身が体験したかのような生々しいものとして
はっきりと記憶に残るようになってきた。

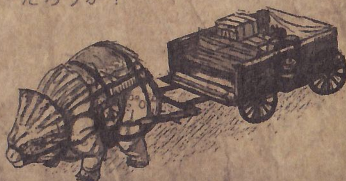
一度情報を整理しておかないと、頭が混乱するばかりだ。



初めて見る建築様式の街並みが広がっていた。
どこかの国の都市のようだったが…。



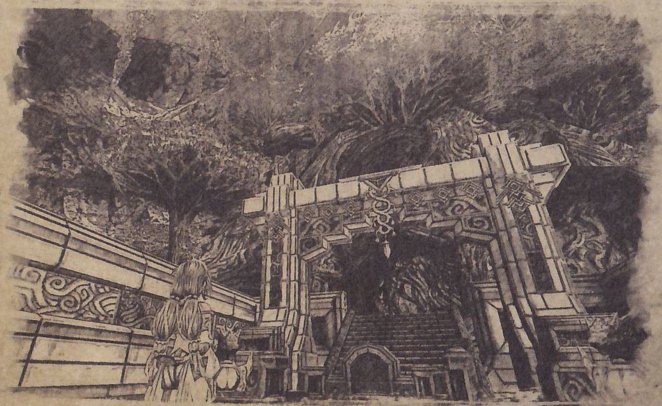
古代種に車を牽かせている？
人間に対して攻撃性を持って
いないようだが、調教次第では
セイレン島の古代種も
このようになるの
だろうか？





夢に出てきた人々は、皆長身でしなやかな体格をしていた。
服装もこれまでに旅した地域では目にしたことが無いものだ。
エウロペの一般的な服装に比べ、肌の露出が高いという点も気になる。
サンドリアよりも更に南部、熱帯地方の民族なのだろうか？

また、幾分ゆったりとした長衣を着用している者もいた。
何らかの階級制度によって服装を分ける文化が形成されているのかもしれない。



"大樹の寺院"。僕が見た夢の中で最も印象に残っている景観のひとつだ。
そこには、この世のものとは思えない巨塔の如き「大樹」が立っていた。
夢の中であっても、ダーナの意識を通じてその強大な生命力を感じ取ることができた。

ダーナ

夢の内容は、だいたい彼女を
中心として起こる出来事だ。

最近では彼女の行動自体を
追体験する様な感覚で、
夢から覚めた後はしばらく
現実との区別が曖昧になって
しまう。

ダーナは「大樹の巫女」なる
高位の座に就いたようだが、
それが何を意味するものなのか……。
夢の中の断片的な記憶からは
限られた情報しか読み取ることが
できない。



Dana Iclucia











オルガ

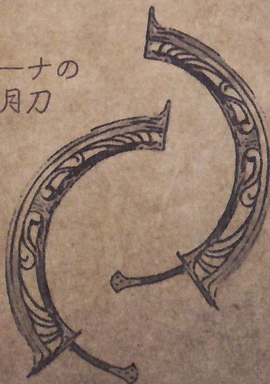
ダーナの親友であり、
共に寺院で修業した幼馴染らしい。
祭司長を名乗っていたが、
巫女となったダーナを
補佐する立場にあるのだろうか？

サライ

ダーナ、オルガと共に巫女
候補として修行に励んでいた。

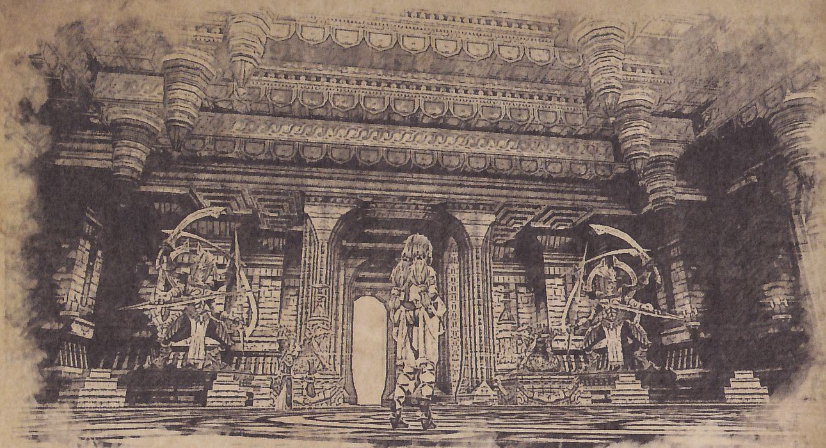
巫女に選ばれたダーナに
不思議な輝きを放つ
――陽色金？を使った
半月刀という珍しい形状の
武器を贈っていた。

ダーナの
半月刀



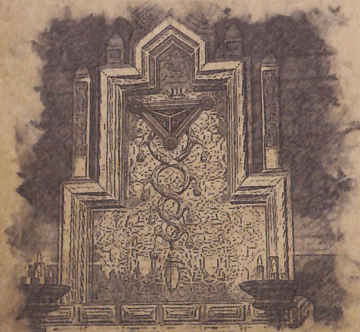
ダーナの体格は他の人々と比べて
特に小柄だ、とサライが語っていた。

確かに、夢の中に出てくるのは
ダーナより一回りも二回りも体格の
大きな人々ばかりだ。
長身という身体的特徴が彼女たちを
知る上で一つの手掛かりとなるかも
しれない……。



夢の中のダーナの行動と自分の感覚が重なった瞬間、奇妙な感覚を覚えた。
自分が「周囲を見たい」と意識を向けると、呼応するかのようにダーナの意志が散策を始めるのだ。
あくまで主体はダーナであり、僕自身は彼女の感覚を借りている、と説明すれば良いのだろうか……？　何て言葉にし辛い感覚なんだ！

だが、この現象は――逆もありうるのではないか……？



自分で実際に見て触れたように
記憶しているためか、
夢の中で特に印象に残っているモノは
細部まで鮮明に思い出すことができる。

寺院の中にあったこの祭壇の紋章……
一体何を表しているのだろう？



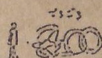
どこか見覚えのある光景だ。夢の中の住人たちは大峡谷と呼んでいたが……。

僕達の見知った大峡谷とは異なり、谷底に水流はなく、
人間の足で降り立つことができていた。
それにしても、時折吹いていたあの猛烈な
強風は何だったのだろうか？



ゴーリンゲン
強風吹きすさぶ谷底でダーナを待ち構えていた。

獲物を目掛けて転がってくる習性を持って
いるため、生物の一種だと思うのだが、
外見は植物そのものだ。意思を持った
動く植物、という見方もできるが……。





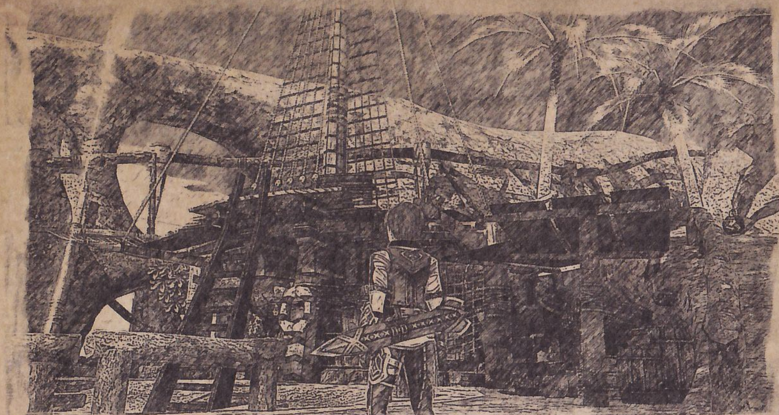


ヒモロギの木の苗

この苗を所定の場所に植えることが、
どうやら植樹祭というものだったようだ。

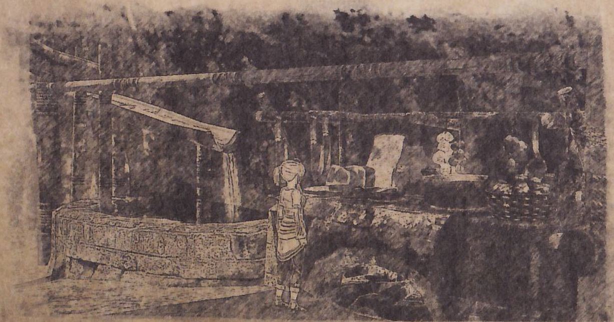
あの大樹のイメージといい、
ここは樹木信仰の文明なのだろうか？
エウロペ地方にも星刻の教えが浸透する遥か前には
樹木を崇めるという土着信仰があったらしいが……。

漂流村に水道が整った！



Drifting Village

水道設備が整ったことで、
より人間らしい生活ができるようになったと感じる。
ようやく皆が再び前向きになり始めた。
クィナの屈託のない明るさも救いになっているのだろう。
探索を再開するべき時だ。いよいよ島の北側を目指すのだ。



水道設備

村の各施設へ直接水を引けるようにするため、
エアランが高台の清流から“タケ”という
珍しい植物で作った水路を張り巡らせた。

鍛冶場、農場、調理場からは大絶賛の声が
あがっている。



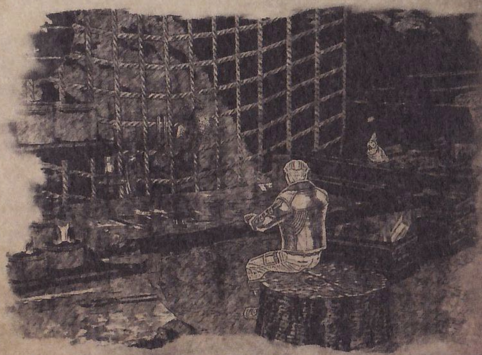
エアラン

ロムン帝国の憲兵団員。

帝国で起きたある事件の
犯人を追ってロンバルディア号に
乗り込んでいたようだ。

ロムン人の方言かどうかは
分からないが、
「バーロー」という奇妙な言葉を
口癖のように発している。

……「バーロー」とは
どういう意味なのだろう？





工芸屋

持ち前の器用さを活かして
ちょっとした防具や装飾品を仕上げて
くれる。エアランの話によると、材料さえ
揃っていれば何とかなるそうだ。

それにしても、手持ちの道具を素材単位
にまで分解してくれるとは！



Licht

リヒト

急病の船医の代わりとして
ロンバルディア号に乗船していたらしく、
今は医学を勉強している最中だそうだ。

極端に内気で頼りない面もあるが、
こと医学に関する知識と決断力は的確で、
臨時の船医として彼が選ばれたというのも頷ける。

……彼なら診療所を任せられるかもしれない。



クィナ

こっそりロンバルディア号に
乗船していた女の子だ。

浜辺で何とか救出することが
できたが、怪我もせず、
よく無事で生き延びたものだ。

少々イタズラが過ぎるきらいがあるが、
その屈託のない無邪気な明るさは、
漂流村に笑みをもたらしてくれる。

彼女にとってはドギやリトル・パロが
丁度良い遊び相手になっているらしい。
ドギも大変だろうけど、よくクイナの
面倒を見てくれている。これなら安心だろう。



Kuina

北へ

セイレン島の南部に関してはほぼ踏破したと思いたい。
そろそろあの山岳に挑戦し、北部へのルートを開拓して探索を始めたいが、
まだ大きな問題が残っている。

我々と山岳の間を隔てている、あの大峡谷だ。

ジャンダルム



Gens d' armes

「エラそうに立ち塞がるエアラン」にちなんで「憲兵さん」と名付けられた。
名付け親はラクシャだ。
……由来のご本人には言わないでおこう。

！！？？



大峡谷に辿り着いたが…

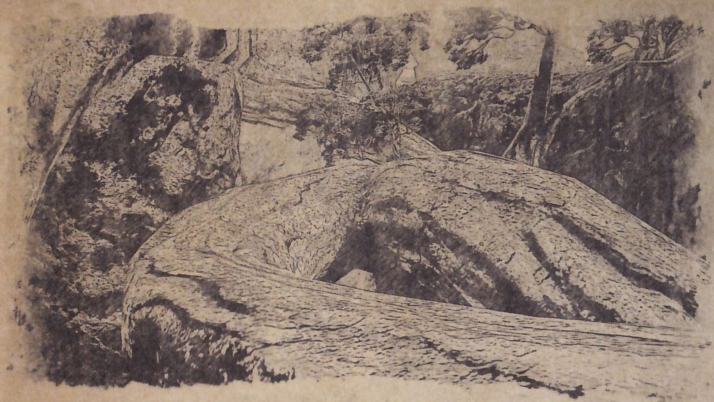
The Paranks Valley

これは一体何だ！？
以前この場所を訪れた時には「こんなもの」は跡形もなかったはずだが……。
対岸から巨大な「木」の枝が、僕達を導くようにこちらへと伸びている。

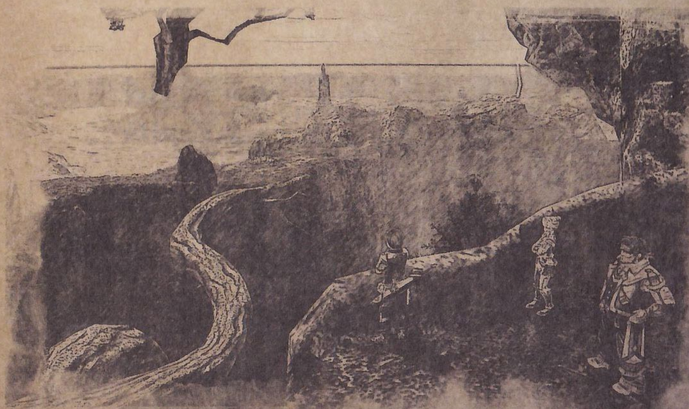
手で触れてみたが、表面は自然木そのもの。
特に変わった点も見受けられない。

……しかし、この大木の形、どこかで見たような気が……。





曲がりくねって滑落の危険はあるかもしれないが、
とにかく渡ってみることにした。慎重に…。



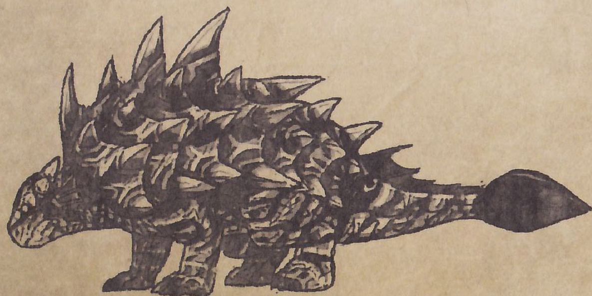
遂に対岸へと辿り着いた！
目的地のジャンダルムは目と鼻の先だ。



大峡谷を越え、ジャンダルムへと向かう道中、
僕達の上空を巨大な影が横切っていった。

飛行型の古代種かと思われるが、それにしてもあの巨大さは一体……。

影はそのまま北部へ、ジャンダルムの更に奥へと消えていった。
あの場所には何があるのだろう？
一刻も早く自分の目で確かめてみたい。



メラルディアス

大峡谷を超えた辺りから見かけるようになった中型の古代種だ。
剣戟をものともしない頑強な体と突進力は侮れないが、
鈍重なためか、あまり小回りが効かないようだ。

攻撃を仕掛けてこない以上、無理に相手をする必要もないだろう。



ジャンダルムに挑むときが来た。
この山腹に開いた洞窟が、どうやら入り口らしい。
何とか登頂、あるいは北側へ抜ける道でも見つかれば良いのだが。

さあ、出発だ！

セイレン島
南部地図



日の出ヶ浜
奇岩海岸
浸食谷
ジャンダルム
大峡谷
シュラム密林地帯
古代種の抜け道
獣たちの丘
大渓谷流域
隆起珊瑚の森
ロングウォーター海岸
水と森の丘
遠鳴り浜
名知らず海岸
風見丘陵
風の入り江
白浜岬


N
NW
NE
W
E
SW
SE
S
Esterior
Promalock
Celceta
Gllia
Ispani
Barengia
Europe
Ediz
The Afroca Continent

The Eresia Continent



